



Shibaura Institute of Technology

校友会本部だより

18

2013. JUNE

「校友倶楽部」が4周年を迎えました!

皆様のより一層のご利用を心よりお待ちしております。



【ホワイトラウンジ】



【ブラックラウンジ】

芝浦工業大学校歌 CD(¥2,000…送料込) 販売



「曲目」

1. 芝浦工業大学校歌
2. 応援歌
3. 校歌演奏

指揮：金 洪才
独唱：望月哲也
演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団

校歌：作曲・山田耕作
作詞・北原白秋

●CDに関するお問い合わせ先

【芝浦工業大学校友会】
〒108-8548
東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内
TEL03-5445-9634 FAX03-5445-9635
e-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp

●振込先

郵便局：加入者名：芝浦工業大学校友会
口座番号：00160-5-9575

校歌

山田耕筈 作曲
北原白秋 作詞

一、朝日に輝く 風と潮

雄大空あり 雲は移る

仰げよ校旗の 翩翻たるを

白亜の殿堂 ここに聳え

われらが工学 英気鐘む

芝浦 芝浦 我等が母校

二、世紀に脈うつ 熱と理性

剛健矩あり 常に鍛う

行へほがらに 澁刺たれや

師弟の純情 一に依りて

磨くにこの技 神に通ず

芝浦 芝浦 我等が母校

三、永遠に栄ゆく 意志と秩序

誠実ただあり 道は徹る

夢むな空理の漠々たるを

精微をきはめて 事に即かば

工学日本 大を成さん

芝浦 芝浦 我等が母校

目 次

会長挨拶	1
役員紹介	2
平成 24 年度事業・決算・監査報告	9
平成 25 年度事業・予算計画	12
平成 25 年度 校友会功労者表彰	13
平成 25 年度 課外活動指導者功労賞	15
平成 25 年度 母校文化会体育会強化育成事業 奨励支援金対象団体	16
芝浦工業大学からのお知らせ	17
第 2 回 実学サロン	24
第 3 回 実学サロン	32
支部活動紹介	38
“支部旗”全国にひるがえる	50
校友会常任幹事会名簿	51
校友会支部及び支部長一覧	53

会 長 挨拶



芝浦工業大学 校友会
会 長
鈴 見 健 夫

建築学科
昭和45年 卒業

校友の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は各支部活動にご尽力、ご協力を賜りまして誠に有難うございます。

昨年末の政権交代により安倍内閣がスタート致しました。アベノミクス効果によるデフレ脱却期待により国民は少し明るい期待を持ち始めた感が致しますが円安効果も業種によって明暗が分かれています。校友の皆様もそれぞれの活動の中で実感されていることと思います。

さて今年も4月2日に東京国際フォーラムに於きまして大学入学式が挙行され大学院も含め2240名が入学致しました。

本年も校友会プレゼンツとして 東京フィルハーモニー交響楽団によるミニコンサートが開催されました。

始めにソリストである バリトンの与那城敬氏による校歌の独唱があり、ワーグナーの「マイスタージンガー」シュトラウス「美しき青きドナウ」「春の声」「闘牛士の歌」「威風堂々」「カヴァレリ・ルスティカーナ」「新世界より」等が80名のオーケストラ(指揮 渡邊一正)により演奏されました。

何れもポピュラーな名曲であり父母も含め約4000名の皆さんがその迫力に感激をしていました。20歳前後の大多数の学生にとっては初めての経験ではなかったかと思います。是非、これを機会に芸術に触れる機会を持ち感性豊かな工学技術者に育って欲しいと思いました。会場には約200名の校友の席を用意致しましたが、平日のせい、PR不足のせい、空席が目立ちました。来年はもっと多くの校友の皆さんに参加

して頂けたらと思います。

私は芝浦工業大学に学び卒業し校友会に参加して全国の校友の皆さんと交流をしていますが、いつもこれは人の縁なんだなと思います。

終戦の玉音放送の草稿を書き平成の元号の考案者である、安岡正篤先生が言われる

「縁尋機妙 多逢聖因」(えんじんきみょう たほうしょういん) と言う言葉が有ります。

縁尋機妙 良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展してゆく様は誠に妙なるものがある。

多逢聖因 良い人に交わっていると良い結果に恵まれる

私は校友会の発展はそれぞれの校友の皆さんが芝浦工業大学に学び卒業したという縁を大切にしさらに良い縁を持ち発展していく事。それが良い結果に恵まれていけば 増々校友会、大学の発展に繋がるのではないかと思っています。

最後になりますが校友会に対しまして一層のご支援ご鞭撻をお願いすると共に校友、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

役員紹介



芝浦工業大学 校友会
副会長 特別委員長
枝広 英俊

建築学科
昭和46年 卒業



芝浦工業大学 校友会
副会長 組織委員長
郡司 卓臣

機械工学科
昭和43年 卒業

全国総会(6/8)へのご参加を期待しています!!

校友会の皆様には、全国総会、支部総会等を通じまして、大変お世話になっておりました厚くお礼申し上げます。これまで卒業生として、また学内からの校友会執行役員の一員として、副会長を微力ながら務めさせて頂いておりますが、合わせて箱根駅伝出場を目指して特別委員会の委員長を仰せつかっております。昨年度(2012年度)は、味澤善朗監督と陸上部選手諸君の努力・挑戦もありまして、校友会念願の**第89回箱根駅伝予選会出場**を果たし、『45チーム中40位』という長年の目標を達することができましたし、さらに**第80回埼玉駅伝競走大会**にも初参加して、一般の部で『20チーム中11位』という好成績を残すことができました。選手諸君の頑張り・チームワークは素晴らしいもので、これも校友会の皆様への経済的支援と応援があった成果と感謝しております。本年度もさらに上位を目指して、日々練習と勉学に励んでおりますが、ユニフォーム代、シューズ代、応援旗代、合宿費用等がまだまだ不足しております。気持ちばかりで結構ですので、皆様からの益々のご支援を是非お願いする次第です。

一方で、本学の硬式野球部の顧問(部長)をお引受けして20年近くになりますが、本年度は**東都大学野球連盟3部**として約40名の部員が3部のAクラスを目指して練習および公式戦に励んでおります。40～50年前の強さはありませんが、野球を愛し、社会に出ても礼儀正しく努力を惜しまない学生諸君が巣立っております。戦績等、詳しくは連盟または芝浦工業大学硬式野球部HPにアップしていますので、関心がありましたら是非ご覧頂き、機会がありましたら観戦にでも来て頂ければ幸甚に存じます。

私は山梨県甲府市の出身ですが、父親の仕事の関係で京都で生まれ、その後、長崎、群馬県前橋市、東京、山形、鳥根県松江市、東京(芝工大時代)で育ち、入社してからは神戸、東京、横須賀、広島等々へ転勤し、また長期出張では北海道網走(女満別)、大阪へ度々行っていました。

いろいろな地域で育ったお陰でその地域の人と話をしたり興味を持つようになり、そこに10日間も居るとその住人になったような気になり、その土地が好きになります。

海外は東南アジア7カ国(タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、中国香港、台湾、韓国)、欧州(主にドイツ)、北米へ行き、国内外を含め多くの先輩、知人、友人から指導援助協力を受けてきました。

現役引退後は今迄に受けた恩を自分が出来る範囲で行動し、皆様のお役にできれば幸いと思っています。

昭和43年機械工学科を卒業して以来、大学には時々顔を出し、求人難の時には学生の紹介をお願いしたりしました。当時の主任教授からは『同窓の絆』を強く教えられた事があり、機械工学科同窓会の幹事を永年続けてきました。

学科同窓会が校友会支部になれない事への疑問が生じ、校友会活動に参加しながら、模索してきました。平成20年校友会常任幹事に就任、平成23年副会長(組織委員長)になり、学科同窓会が校友会支部に加入出来るよう会則を変更した事に伴い、現在は3支部(機械工学科、MOT、よろく会)が加入し、活発な活動をしています。

校友会は従来の地域、同好、企業職域支部である組織体に縦組織の学科支部が加わることにより、強固な組織体となり、充実した活動が期待出来ます。

地域支部に於いては地理的に東西に長い支部、南北に長い支部、面積が広い支部等で、一日では会員の皆様が集まるのが困難な地域があるので平成24年から分会制度を設定し、集まり易く又支部活動の活性化へ役立つようにしました。(長野、福島、神奈川、よろく会、広島、鳥取、等々) 詳細は事務局又は組織委員会へお問い合わせ下さい。

組織委員会は支部の充実と活動の活性化を第一目的としていますので、各支部のご意見、ご要望等を忌憚なくご連絡下さい。今後とも宜しく申し上げます。

役員紹介



芝浦工業大学 校友会
副会長 事業委員長
清水 修司

建築学科
昭和44年 卒業



芝浦工業大学 校友会
副会長 総務委員長
泉澤 定雄

建築学科
昭和46年 卒業

校友の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

卒業生を中核とする会員相互の交流と親睦、母校の教職員及び学生との交流と親睦によって母校の発展に寄与することが本学校友会の目的ですが、この交流と親睦はまさに私の社会人生活の中で最も大切にしてきたことです。

私事ではありますが、6年前にREB(レブ: REAL ESTATE BUSSINESSの略) - 1000社の会という会を立ち上げ、建築・不動産関連企業の交流の場としてセミナーと情報交流会を定期的に開催しています。人が人を呼び、会を重ねるごとに参加者が増え、毎回300名を超える方々にお越し頂き、今では参加企業3,000社、参加人数は延べ10,000人を超える規模となりました。社会情勢や業界の動向にあわせた『時の人』を講師に迎えるセミナーは、参加者の皆様から「他の会でもなかなか伺えない本音の話を知ることができる」とのお声を頂いておりますが、何よりセミナー後の交流会は業界の有名企業・元気企業の代表者やキーマン、不動産経営者の方々が一同に会した熱気溢れる情報交換が行われており、メールやインターネット環境が普及し時間や場所に縛られないコミュニケーションが主流になった現在でも、わざわざ足を運んでいただき直接顔を合わせて行うコミュニケーションはやはり必要とされているものと実感しております。

本学校友会からも、各企業でご活躍中の方々、OBの方々多数のご出席を頂いており、会員相互の交流と親睦の一助となれば幸いです。但し、今後はこの人と人との繋がりを活用した本学卒業生の方々の就職支援等、微力ながら母校の発展に寄与していきたいと考えております。

個人にとってのエポックメイキングな作品

今回の挨拶文は、自己紹介のようなものにして、との提案が執行委員会でなされました。私は建築の設計を生業としていますので、どのような経過をたどって、建物が具体化されたかを語ることで、自己紹介に変えたいと思います。

第一の作品は「宮城県建設業会館(写真-1)」です。文字通り宮城県の建設業の、親睦団体の会館で、公開プロポーザルで設計者選定が行われました。



写真-1
宮城県建設業会館

運よく設計者に選定されましたが、そのポイントは以下の三点でした。

- ① 建設業に対する信頼感を増すため、安定感があり、耐震性に優れた建物とする。それと同時に、クリーンなイメージの景観を地域に提供する。
- ② 市民に愛され、親しまれる建物となるため、開放的な空間を提供する。そのため構造的な検討を加えながら、1階部分に大ホールを配置し、前庭と一体となって、500人程度のイベントを行えるようにする。

- ③ 加入者の全体会議に対応するため、50 台の駐車場（機械式）を設ける。

第二の作品は「栃木県運転免許センター（写真-2）」です。この建物の特殊性は、来館者の数の増減が著しいことです。通常は300人程度であるものが、春休みになると3,000人（高校生の原付免許取得者が中心）に増えてしまいます。通常は事務所空間であるものが、ハイシーズンには集会場変わってしまいます。

しかも、新たに免許を取得し、希望に燃えている人とは対照的、免許停止や取り消し、を受ける人もやってきます。さりげなく動線を分離する必要がありました。

さらには一団の敷地が狭小であるため、事務所棟と試験コースが公道によって分かれるため、ブリッジにより連結してあります。道路の上空専用となるため、六者協議が設置され、多くの時間が費やされました。

第三の作品は「神奈川県立公文書館（写真-3）」です。この建物は指名6社によるプロポーザルで設計者が選定されました。



写真-2 栃木県運転免許センター

計画の方針を検討する中で、検討すべき事柄が明確になり、以下のような視点が抽出されてきました。建物の原点に迫るようなテーマでありました。

- ① 源頼朝の書簡をはじめ、歴史的にかなり重要な資料が保存されます。

従って、地震による被害を受けない、雨漏りを発生させない、虫害を受けない、等をテーマにしました。そのため、陸屋根にアスファルト防水を実施した上に、さらなる安全性を確保するため、金属板による屋根を葺いてあります。虫害防止のためには、貴重文書の傍に燻蒸設備も設けました。

- ② この建物の機能には、各種の文書が県にとって必要か否かを、判断する業務があります。そのため、県の各施設から大量の文書が送られてきます。これらを分類する作業を行います。この分類作業スペースを、合理的に配置することが望まれます。車路部分から、直接入れる選別エリアを設けました。

- ③ 文書の最良の材料は和紙です。1,000年以上に渡って、変化なしで存在することが可能です。建物の随所に、和紙若しくは和紙加工品を採用し、永続性を表現してあります。この建物に関与した方々の名簿が、和紙で保存されています。

この建物には「歴史を未来に繋ぐ公文書館」というテーマが与えられました。

自慢話のようになりましたが、仕事にどのように取り組んできたかを述べるのが、自分を紹介することになると考え、記載させていただきました。



写真-3 神奈川県立公文書館

役員紹介



芝浦工業大学 校友会
副会長 財務委員長
加藤 善次郎

機械工学科
昭和55年 卒業



芝浦工業大学 校友会
常任幹事会議長
渡辺 碩

建築学科
昭和45年 卒業

校友会歴

平成12年～ 常任幹事就任
平成15年～20年 常任幹事会議長 選挙管理委員
平成20年～23年 全国総会副実行委員長
平成20年～ 副会長 財務委員長
平成23年 副会長 財務委員長再任

経歴

昭和55年 川本工業(株)入社
昭和60年 川本工業(株)退社
昭和60年～ (株)日本環境設計設立
平成24年 (株)日本環境設計 代表取締役社長就任

財務委員会報告

校友会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。私は、現在校友会副会長を務めさせて頂いております加藤善次郎です。校友会本部では、財務委員長を仰せつかり、常日頃、皆様から徴収させて頂きました貴重な校友会費を適正に運営することに努めております。さて、校友会の財務についてこの機会に少々説明をさせて頂けたらと思っています。全国総会で決算報告、予算計画を説明させて頂き会員の皆様の承認を得て会費執行を行っていますが、短い時間の中なかなかご理解を頂くのは難しいのではないかと思います。

一言で申し上げますと、皆様から徴収させて頂きました会費は、適正、健全に執行させて頂くことを大原則に、このところの決算、予算の基本的な事象から申し上げますと、ここ何年も決算の金額と予算の金額にほとんど相違がなく推移しており、毎年総会に於いて承認頂いた予算はその計画通りに執行されていますということです。その内訳は、収入についてですが、そのほとんどは、終身会費4万円で賄われています。平成7年入学以降の会員が卒業年に代理徴収と言う形で毎年支払って頂いているものです。それ以前に入学された会員は、終身会費4万円をお支払い頂くか(支払済みの会員も多くいらっしゃいます)年会費3千円を毎年お支払い頂くことになってはいますが、なかなか実行に移れていません。皆様のご協力をお願いします。その他の事業収入は、事業支出とほぼ同額になっています。

次に支出についてですが、その基本は、収入のうち積立金として1千万円を将来の大型支出に備え毎年基本財産積立金として貯蓄し、残りについて事業支出する事としています。つまり、収入から1千万円を控除した金額を総支出額にしています。

しかし、今年度については、学生支援金を増額して学生の支援に充てることを大学側とも協議し決定しましたので、この基本財産積立金の一部を取り崩して執行する予定です。皆様のご理解をお願いします。

私、このたび常任幹事会議長に就任いたしました渡辺です。

昭和45年に建築学科を卒業いたしました。この昭和45年は学園紛争の真っ只中で、田町もバリケードに囲まれていました。卒業式もなく、卒業証書を事務局に取りに行った記憶があります。最近ではなくなりましたが、卒業しないと慌てている夢をよく見ました。

「新建築」に掲載されていた設計事務所数社を訪問し、自己ピーアールのもと、NOIE 建築設計事務所に入社いたしました。私は、早くから独立し、設計事務所を立ち上げるつもりでしたので、三年間だけ学ばせて下さいと入社いたしました。

しかし、一年後には、現在のTAW 建築設計事務所を設立しておりました。まだ一級も取れていなく、名義を借りてのスタートでした。NOIEは理解のある先生だったので、二年間はNOIEとTAWの両立で過ごしました。

最初の作品は、事務所兼住宅の6階建のRCでした。現代も建っていますが、右も左もよく分からず、よく設計したものだと思います。その建物の屋上にペントハウスを建てて、事務所をスタートさせました。

バブル絶頂の頃は、半端なく遊び、酒を呑みました。

25年程前、ビルメンテナンスと店舗設計施工の会社を設立しました。これも、交際費を作る事も兼ねて、でした。

色々と山あり谷ありでしたが、早いもので四十年もの時が過ぎてしまいました。現在も一線で活躍させて頂いております。

芝浦工業大学の卒業生として、校友会の発展のために尽くさせて頂く所存です。よろしくお願ひ致します。

役員紹介



芝浦工業大学 校友会
監査役

大丸 征史

電子工学科
昭和39年 卒業

は有名です。一方、工学博士を取得し現在も頑張っている後輩も浮ヶ谷文雄氏と他にも二名おります。また、文武両道を実践し上場企業の役員や経営者として活躍された先輩、後輩も数多くおります。私も部活動の4年間の経験が実社会で役立ち感謝しております。昨年OB会が校友会支部に認定され更に充実を図り現役を支援していきたいと思っております。

「生い立ち」

私は東京郊外の国分寺で昭和16年に生まれました。今は若者の街として発展しておりますが、私の子供の頃は時々荷馬車が通るような自然豊かな田舎町で育ちました。

小学校は生徒数が多く二部授業、中学は軍需工場跡の分校に入学したほどの大人数で、半年後第二中学校として独立し勉強よりも野球に夢中でした。プロ野球選手を夢見ていたのですが一拍子足りず諦めました。高校からは父がやっていた柔道に打ち込み大学は柔道部に所属し一応講道館6段をいただきましたが今の實力は梯子段です。

「大学時代」

昭和35年に電子工学科に入学しました。当時はクラスの7割が地方出身で全校で女子も数名でした。今は7割が東京近県でそのうち女子が3割に達するほどで時代の変遷を感じます。母校の評価もアップし受験者数も毎年増加しており就職に強い大学として注目されています。私が驚いたことの一つに今は追試験が無いそうです。お恥ずかしい話ですが追試験で卒業できた劣等生としては昔で良かったと思う方は私一人ではないと思っております。それだけ学力レベルが上がっているということですね。

私のいた柔道部の宣伝を少しさせていただきます。当時は部員が50名近くおりましたが現在は少数で試合出場にも苦勞している状況です。30年代後半から全日本理工科学生柔道大会で7連覇を達成し、その後60年代にも3連覇をするほど輝かしい時代もありました。また、OBには高段者も多数おりますが最高位の講道館八段を理工科出身で取得し現在も柔道界に貢献している後輩の橋本五十夫、英道生氏の二人

「校友会活動」

校友会活動に携わって感じていることは、卒業生の中には大学は卒業したら関係ない関心が薄くなる傾向があります。やはり、私の学生時代から60年代まではスポーツが盛んで新聞に載る機会も多く一体感が生まれ愛校心が育ったのだと思います。現在、校友会は箱根駅伝出場をめざし支援しております。昨年初めて予選会出場を果たし、今まで母校に関心が無かった多くの校友から本選出場を目指して頑張ってくれと励ましの連絡があり影響の大きさに驚いています。現役学生も関心を持ち始めており学校との一体感の必要性を改めて感じました。今後も毎年TV放映される琵琶湖の鳥人間やロボット大会をはじめ活動しているクラブ、サークル活動の活性化支援が必要と感じます。実社会は勉強だけではなくバランス感覚を持った人間を必要としております。そのためには勉強以外にこうした活動を学生時代に経験することが就活の面接や社会に出てから大いに役立つと思っております。実社会でも学生時代にいろいろ経験された方の活躍が多くみられます。今後とも学生、若手卒業生の人間形成の一助になるよう校友会の一員として努力していく所存です。

役員紹介



芝浦工業大学 校友会
監査役会議長
金井 昭三

機械工学第二学科
昭和41年 卒業

校友会歴

平成 11 年 6 月～ 常任幹事
平成 13 年 6 月～ 常任幹事会議長
平成 14 年 6 月～ 20 年 6 月 副会長
平成 14 年 11 月～ 15 年 9 月 会長職務代行
平成 23 年 6 月～ 監査役会議長 現在に至る

大学経歴

平成 14 年 芝浦工業大学 評議員
平成 15 年 芝浦工業大学 理事
平成 20 年 芝浦工業大学 評議員

職歴

平成 7 年 林時計工業株式会社 常務取締役
平成 20 年 同上 技術顧問
平成 25 年 同上 非常勤顧問(リクルート担当) 現在に至る

自己紹介

昭和 36 年 4 月芝浦工業大学工学部二部機械工学科入学、2 年後の昭和 38 年 4 月に一部の工学部機械工学第二学科に編入し、昭和 41 年 3 月に工学部機械工学第二学科を卒業しました。卒業と同時に恩師佐藤運男教授のご紹介で林時計工業に入社しました。当時この会社は第二精工舎(現 SII)の腕時計組み立ての協力会社で、従業員 200 人規模の会社でした。私が林時計工業にお世話になった切っ掛けは、当時母校工学部工業化学科の木邑隆保教授と林時計工業の林厚専務(現会長)が中学時代の同級生であった事をご縁でした。この頃、昭和 39 年の東京オリンピックのオフィシャルタイマーを務めた日本の時計産業「世界の時計セイコー」はスイスの時計産業の技術に「追い着け・追い越せ」をかけ声に、TQC 導入による品質向上運動が展開されているさなかで、親会社から協力会社へ要求される技術レベルは高く、従来の職人集団では仕事が立ちゆかなくなっていました。この様な時代背景から、林時計工業の林専務から芝浦工業大学の木邑教授に機械科の卒業生が是非とも欲しいとの要望があり、恩師佐藤運男教授のご推薦を頂いた次第です。

入社後は第二精工舎内の時計学校へ入学し、時計理論、時計製造技術について学び、更に、数度にわたるスイスの時計産業の視察により技術を身につけ、時計技術者として日本の時計産業発展に寄与できたと、また、会社の新ビジネス立ち上げに参画し、画像処理用光ファイバー式高輝度冷光照明装置および双眼実体顕微鏡用 LED 照明装置を世に送り出し、日本のものづくりに貢献できたと自負しています。母校創立者・有元史郎先生の建学の精神「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」に多少なりともお応えでき、芝浦工業大学で学んで良かったと感謝しています。これからも校友会活動を通しての「人とのご縁」大切にしていきたいと思っています。



芝浦工業大学 校友会
監査役
谷川 潮

機械工学第二学科
昭和45年 卒業

校友会歴

平成 17 年 東京総支部顧問
平成 20 年 常任幹事
平成 21 年 東京総支部監査役
平成 23 年 監査役

経歴

昭和45年 東京いすゞ自動車(株)入社
平成 7 年 いすゞ車体開発(株)入社
平成 10 年 同上常務取締役
平成 17 年 東京いすゞ自動車(株)専務取締役
平成 23 年 いすゞ車体(株)社長補佐 企画管理部門

監査役の谷川です。生まれてから育ちは東京の港区麻布我善坊町(現麻布台)でした。私の幼少のころは「三丁目の夕日」の映画に出てくる街並みのようでした。しかし、小学校はコンクリートの(麻布)小学校で記憶では近くにはオランダ大使館がありました。家庭ではTV・冷蔵庫・洗濯機の走りの時期でした。家の二階から遠くに少しずつ伸びている東京タワーが見え、完成したことを覚えています。高度成長時代を迎え、海外から様々なものが入ってきました。コカコーラを初めて飲んでなんとまずい飲み物かと子供心に記憶しています。同世代の若者と同じ、GパンにTシャツというスタイルでコンサートなどに行き、多くの友人、新しい人との出会い行動をひろげてゆきました。「今の若いものは○○○。」と大人からダメ押しをされ始めた時代でした。そんな私を大きく変えさせたのが、芝浦工業大学工業高等学校機械科を卒業し、そして芝浦工業大学で学んだことでした。学んだことは学生時代の友人は一生大切にしろ、前向きな気持ち(チャンスを逃すな)を持って、社会に出たら課題だらけだ、課題を解決できるように身を粉にして頑張るにつけろ。卒論担当齊藤雄三教授から常にお話しを頂き卒業しました。就職先は、いすゞ自動車販売会社を志望しました。いすゞのトラック、バス、エンジンの販売は社会を支える基幹産業ですから非常に魅力を感じました。入社後、当時NHK放送中継車、日本銀行現金輸送車、東京電力電源車、IHIクレーン車等を設計製造コントロールする部隊に配属されました。まさに先生の言われた通り課題の塊、ハード・ソフト両方を必死に操りながら、いすゞメーカーの開発、関連会社を経験し何とか卒業時、心に留めた課題解決の実戦が出来るようになり講談社の本に掲載される各種の特装・消防車両を世に送り出すことができ現在に至ります。これからもこの経験をいすゞ・車両業界で生かし、且つ校友会、そして後輩が大切な企業で勝ち抜くため、一つの芝浦魂のあり方として伝えていきたいと思っている男です。未来の芝浦のためにも!

平成24年度 事業報告

「運営」

1. 本部と支部及び会員の関係強化の為、支部総会に積極的に参加した。
2. 支部活性化のため、本部役員が重点を絞り参加した。
3. 休眠支部の再立上げと新支部の立ち上げを積極的に図り、尚且つ54支部に対し助成した。
4. 母校支援事業として教育事業後援資金を提供した。
5. 母校主催の「新年賀詞交歓会」・「ホームカミングデー」に協賛した。
7. 在校生主催「芝浦祭」へ支援した。平成24年11月3日～5日豊洲校舎にて開催。
8. 資格取得講座の紹介業務を推進した。
9. 平成24年度の新入生及び学部卒業生全員に記念品を贈呈した。
10. 母校主催の父母懇談会に支部役員及び本部役員が参加協力した。全国11会場にて開催。
11. 母校学生団体への資金協力をした。
12. 箱根駅伝出場に向けての支援を行った。
13. 校友のための、実学サロンを5回実施した。

「会議及び委員会」

- * 定期総会（全国総会）平成24年6月9日（土）
ホテルイースト21 午後1時30分～午後2時15分
- * 幹事会 平成24年6月9日（土）
ホテルイースト21 午後2時20分～午後2時30分
- * 懇親会 平成24年6月9日（土）約400名参加
ホテルイースト21 午後3時00分～午後6時00分
- * 新年賀詞交歓会 平成24年1月25日（金）
芝浦校舎 1階旧レストラン 約120名参加
- * 常任幹事会
○第1回 12月 6日 ○第2回 3月14日
○第3回 5月16日
- * 全国支部連絡会（旧：全国支部長会議）
○第11回 6月9日

* 執行役員会（年間11回）

- ・ 今任期中の新規事業内容立案
- ・ 幹事会及び常任幹事会が審議・決定する基本的な運営方針と重要事項の事前審議
- ・ 全国支部連絡会の企画・運営
- ・ 幹事会及び常任幹事会に於いて決定した基本方針を個別化し具体的に業務を執行し、各業務間の調整を行う

* 総務委員会（年間9回）

- ・ ホームページのリニューアル
- ・ 大学との連携によるインターンシップの充実
- ・ 実学サロンの企画運営

* 財務委員会（年間3回開催）

- ・ 基本財産及び流動資産の整理、統合、管理の徹底
- ・ 経理規則の見直し
- ・ 予算書、決算書作成

* 組織委員会（年間9回開催）

- ・ 校友会 会員名簿追補版発行へ向けての打合せ
- ・ 休眠支部活性化の推進
- ・ 支部総会への参加
- ・ 外国支部の立ち上げ
- ・ 新規事業内容の検討

* 事業委員会（年間4回開催）

- ・ 全国総会・懇親会及び新年賀詞交歓会の企画・運営
- ・ 資格取得講座への紹介業務拡大（収益事業として）

* 例規委員会（年間6回開催）

- ・ 会則、規則の見直し・制定

* 特別委員会（年間4回開催）

- ・ 箱根駅伝出場に向けての支援準備
- ・ 課外活動優秀クラブ ・ 学生への支援

* 監査役会（年間6回開催）

- ・ 業務監査 ・ 会計監査 ・ 外部監査法人との話し合い

* 支部総会開催（平成23年4月～平成24年3月）

- ※ 支部総会開催リスト参照

「25年度支部総会開催」

開催日	支部名	開催場所	参加人数
4月14日	高知	高知市	37
4月21日	香川	高松市	26
4月27日	清水建設	港区	30
5月15日	城東	江東区	18
5月19日	岐阜	岐阜市	15
5月19日	福島	郡山市	15
5月26日	愛媛	松山市	15
5月26日	北海道	札幌市	58
6月13日	沖繩	那覇市	16
6月16日	岩手	盛岡市	20
6月22日	愛知	名古屋	21
6月22日	宮城	仙台市	20
6月23日	長崎	福岡市	10
6月23日	福岡	長崎市	36
6月29日	石川	金沢市	23
7月6日	秋田	秋田市	18
7月6日	鹿児島	鹿児島市	20
7月7日	静岡県同窓会	静岡市	37
7月7日	鳥取	米子	15

開催日	支部名	開催場所	参加人数
7月7日	富山	富山市	32
7月11日	川崎市役所	川崎市	13
7月28日	徳島	徳島市	25
7月28日	福井	福井市	10
8月25日	黒潮会	芝浦校舎	12
9月10日	住芝会	港区	14
9月12日	熊本	熊本市	33
9月29日	機械工学科同窓会	豊洲校舎	51
10月13日	大分	大分市	23
10月13日	神奈川支部	横浜市	50
10月20日	茨城	水戸市	45
10月20日	新潟	新潟市	28
10月20日	宮崎	宮崎市	11
10月20日	山口	岩国市	20
10月20日	青森	青森市	28
10月27日	埼玉	大宮校舎	34
10月27日	埼玉	佐賀市	15
11月2日	広島	広島市	35
11月9日	東京	豊洲校舎	57

開催日	支部名	開催場所	参加人数
11月10日	栃木	宇都宮市	31
11月17日	英交会	芝浦校舎	22
11月17日	関西	大阪市	41
11月17日	鳥根	松江市	17
11月30日	多摩	芝浦校舎	27
12月2日	岡山	岡山市	15
1月26日	長野	長野市	17
1月26日	よろく会	芝浦校舎	34
2月22日	奥村組芝浦会	芝浦校舎	15
2月23日	千葉	千葉市	22
2月23日	山形	山形市	15
3月2日	群馬	高崎市	28
3月2日	練心会	港区	30
3月4日	三芝会	芝浦校舎	20
3月8日	山梨	甲府市	9
3月15日	キターオンキブル部	千代田区	19

開催支部合計 54支部 参加者数合計 1348

平成 24 年度 収支計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減
《事業活動収支の部》			
【事業活動収入】			
基本財産運用収入	300,000	219,310	80,690
・基本財産利息収入	300,000	219,310	80,690
会費収入	72,440,000	70,933,000	1,507,000
・正会員収入	68,140,000	66,874,000	1,266,000
終身会費収入(a)	800,000	0	800,000
終身会費収入(b)	66,440,000	66,760,000	-320,000
年会費収入	900,000	114,000	786,000
・臨時会費収入	4,300,000	4,059,000	241,000
全国総会会費収入	4,000,000	3,750,000	250,000
新年交歓会会費収入	300,000	309,000	-9,000
事業収入	7,270,000	7,581,250	-311,250
・名簿作成収入	130,000	166,000	-36,000
・全国総会収入	2,700,000	2,679,055	20,945
・新年交歓会収入	300,000	300,000	0
・その他の事業収入	800,000	1,223,700	-423,700
・CD販売収入	300,000	11,000	289,000
・資格取得サービス収入	500,000	558,600	-58,600
・校友倶楽部収入	2,540,000	2,642,895	-102,895
雑収入	60,000	1,474,948	-1,414,948
・受取利息	20,000	5,981	14,019
・雑収入	40,000	381,975	-341,975
・駅伝寄付	0	1,086,992	-1,086,992
事業活動収入計	80,070,000	80,208,508	-138,508
【事業活動支出】			
事業費支出	44,200,000	46,582,080	-2,382,080
・全国総会懇親会支出	9,000,000	8,178,995	821,005
・支部協力助成金支出	8,600,000	7,924,764	675,236
・会誌発行費支出	1,100,000	777,000	323,000
・名簿支出	780,000	655,315	124,685
・教育事業後援費支出	13,210,000	18,152,581	-4,942,581
・校友倶楽部支出	4,160,000	4,014,664	145,336
・代理徴収返還金支出	1,000,000	1,320,000	-320,000
・その他の事業費支出	6,350,000	5,558,761	791,239
管理費支出	19,500,000	21,951,885	-2,451,885
・会務運営費支出	15,850,000	18,554,815	-2,704,815
・会議会合費支出	3,650,000	3,397,070	252,930
・管理費内予備費支出	0	0	0
事業活動支出計	63,700,000	68,533,965	-4,833,965
事業活動収支差額	16,370,000	11,674,543	4,695,457
《投資活動収支の部》			
【投資活動収入】			
・基本財産取崩収入	10,000	6,380	3,620
・保証金・敷金回収収入	0	0	0
投資活動収入計	10,000	6,380	3,620
【投資活動支出】			
・基本財産組入支出	10,000,000	10,219,310	-219,310
・什器備品取得支出	0	0	0
投資活動支出計	10,000,000	10,219,310	-219,310
投資活動収支差額	-9,990,000	-10,212,930	222,930
《財務活動収支の部》			
【財務活動収入】			
財務活動収入計	0	0	0
【財務活動支出】			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	6,380,000	1,461,613	4,918,387
前期繰越収支差額	66,629,253	66,629,253	0
次期繰越収支差額	73,009,253	68,090,866	4,918,387

平成 24 年度 正味財産増減計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：円)

	中科目	大科目
一般正味財産増減の部		
1、経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産運用収入		219,310
基本財産利息収入	219,310	
会費収入		70,933,000
正会員会費収入	66,874,000	
臨時会費収入	4,059,000	
事業収入		7,581,250
名簿作成収益	166,000	
全国総会収益	2,679,055	
新年交歓会収益	300,000	
その他の事業収益	1,223,700	
CD販売収益	11,000	
資格取得サービス	558,600	
校友倶楽部収益	2,642,895	
雑収益		1,474,948
受取利息	5,981	
雑収益	381,975	
駅伝寄付	1086992	
経常収益計		80,208,508
(2) 経常費用		
事業費		46,582,080
全国総会懇親会費用	8,178,995	
支部協力助成金	7,924,764	
会誌発行費	777,000	
名簿費	655,315	
教育事業後援費	18,152,581	
校友倶楽部費用	4,014,664	
代理徴収返還金	1,320,000	
その他の事業費	5,558,761	
管理費		23,090,916
会務運営費	18,554,815	
会議会合費	3,397,070	
減価償却費	1,139,031	
経常費用合計		69,672,996
当期経常増減額		10,535,512
2、経常外増減の部		
(1) 経常外収益		0
(2) 経常外費用		0
当期経常外増減額		0
当期一般正味財産増減額		10,535,512
一般正味財産期首残高		286,731,609
一般正味財産期末残高		297,267,121
指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額		0
指定正味財産期首残高		0
指定正味財産期末残高		0
正味財産期末残高		297,267,121

平成 24 年度 貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1.流動資産		
(1) 現金預金	67,763,816	
(2) 前払金	442,430	
(3) 立替金	741,665	
(4) 仮払金	26,720	
流動資産合計		68,974,631
2.固定資産		
(1) 基本財産		
預金・国債	215,716,291	
(2) その他の固定資産	13,459,964	
固定資産合計		229,176,255
資産合計		298,150,886
II 負債の部		
1.流動負債		
(1) 未払金	70,000	
(2) 前受金	128,000	
(3) 預り金	685,765	
流動負債合計		883,765
負債合計		883,765
III 正味財産の部		
指定正味財産		
(うち基本財産への充当額)		0
(うち特定資産への充当額)		0
一般正味財産		297,267,121
(うち基本財産への充当額)		《215,716,291》
(うち特定資産への充当額)		《0》
正味財産合計		297,267,121
負債及び正味財産合計		298,150,886

平成 24 年度 財産目録

(平成25年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1.流動資産		
(1) 現金預金等	67,763,816	
①現金手許保有高	916,946	
②普通預金	65,536,430	
みずほ銀行浜松町支店	47,599,340	
みずほ銀行芝支店	9,328,849	
東京三菱銀行田町支店(会費口)	111,046	
東京三菱銀行田町支店(一般口)	8,497,065	
東京三菱銀行田町支店(総会口)	130	
③郵便貯金	1,310,440	
東京貯金事務センター	1,310,440	
(2) 前払金	442,430	
(3) 立替金	741,665	
(4) 仮払金	26,720	
流動資産合計		68,974,631
2.固定資産		
(1) 基本財産	215,716,291	
①基本財産(預金・国債)	215,716,291	
みずほ銀行浜松町支店(定期)	10,067,514	
みずほ銀行浜松町支店	10,000,000	
みずほ銀行芝支店(定期)	10,113,400	
三井住友銀行三田通支店(普通)	12,027,741	
三井住友銀行三田通支店(定期)	10,101,289	
三菱東京UFJ銀行三田支店(普通)	29,907,504	
三菱東京UFJ銀行三田支店(定期)	10,117,445	
三菱東京銀行田町支店(定期)	10,101,289	
りそな銀行田町支店(普通)	42,039,310	
りそな銀行田町支店(定期)	10,102,102	
郵便貯金(普通)	31,138,697	
国債	30,000,000	
(2) その他の固定資産	13,459,964	
①建物設備	10,972,685	
②什器備品	487,279	
③投資有価証券(株エスアイテック株式)	2,000,000	
固定資産合計		229,176,255
資産合計		298,150,886
II 負債の部		
1.流動負債		
(1) 未払金	70,000	
(2) 前受金	128,000	
(3) 預り金	685,765	
流動負債合計		883,765
負債合計		883,765
正味財産合計		297,267,121

平成 24 年度 監査報告

平成 25 年 4 月 18 日
芝浦工業大学校友会
会長 鈴木 健夫殿
芝浦工業大学校友会
監査役 金井 昭三 
監査役 大丸 征史 
監査役 谷川 潮 
監 査 報 告
私達は、平成 24 年度（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）の会計処理および会務について、監査を行った結果、以下の通り報告いたします。
1、会計について
会計帳簿、預金証書等の関係帳票を確認した結果、適正に処理されていると認めます。
2、会務について
会の事務執行体制を整備し、各委員会が活性化し、充実してきた。
また、例規集の見直し改定が行われ、今後、更なる活動的な運営が期待される。

平成 25 年度 事業計画(案)

平成 25 年度 収支予算書(案)

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：円)

「主要計画」

- 1.全国総会・懇親会の開催
- 2.本部と支部の連携強化と支部への多面的支援を図る
 - ・全国支部連絡会の開催
 - ・校友会推薦による入試制度の創設推進を図る
 - ・各支部への助成及び支部旗作成
 - ・支部功労者表彰制度の運営
- 3.健全な財務を育成する為の策定推進を図る
 - ・財産管理の徹底
- 4.各委員会を充実し、機能の拡大及び積極的活動の強化を図る
- 5.母校及び在学生に対し支援活動を図る
 - ・校友による実学教育講座の開催
 - ・新入生及び新卒業生への記念品贈呈
 - ・箱根駅伝出場に向けての支援強化
 - ・学生団体への資金協力
 - ・ホームカミングデーの協賛
 - ・その他大学行事への支援
 - ・在学生のための就職支援強化
- 6.新規幹事と常任幹事の発掘
- 7.校友会と後援会の連携・強化を図る
 - ・後援会との交流
 - ・父母懇談会への参加協力
- 8.校友会倶楽部の運営
- 9.収益事業の促進
 - ・資格取得講座への紹介業務の運営
 - ・校歌CDの販売
 - ・会員名簿の販売
 - ・新規収益事業の開拓
- 10.芝浦技術士会、MOT支部との協力事業の模索

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
《事業活動収支の部》			
【事業活動収入】			
基本財産運用収入	300,000	300,000	0
・基本財産利息収入	300,000	300,000	0
会費収入	73,960,000	72,440,000	1,520,000
・正会員収入	69,660,000	68,140,000	1,520,000
終身会費収入(a)	800,000	800,000	0
終身会費収入(b)	67,960,000	66,440,000	1,520,000
年会費収入	900,000	900,000	0
・臨時会費収入	4,300,000	4,300,000	0
全国総会会費収入	4,000,000	4,000,000	0
新年交歓会会費収入	300,000	300,000	0
事業収入	7,430,000	7,270,000	160,000
・名簿作成収入	130,000	130,000	0
・全国総会収入	2,700,000	2,700,000	0
・新年交歓会収入	300,000	300,000	0
・その他の事業収入	1,200,000	800,000	400,000
・CD販売収入	0	300,000	-300,000
・資格取得サービス収入	500,000	500,000	0
・校友倶楽部収入	2,600,000	2,540,000	60,000
雑収入	60,000	60,000	0
・受取利息	20,000	20,000	0
・雑収入	40,000	40,000	0
事業活動収入計	81,750,000	80,070,000	1,680,000
【事業活動支出】			
事業費支出	54,600,000	44,200,000	10,400,000
・全国総会懇親会支出	9,020,000	9,000,000	20,000
・支部協力助成金支出	9,600,000	8,600,000	1,000,000
・会誌発行費支出	1,100,000	1,100,000	0
・名簿支出	720,000	780,000	-60,000
・教育事業後援費支出	23,190,000	13,210,000	9,980,000
・校友倶楽部支出	4,270,000	4,160,000	110,000
・代理徴収返還金支出	1,000,000	1,000,000	0
・その他の事業費支出	5,700,000	6,350,000	-650,000
管理費支出	18,850,000	19,500,000	-650,000
・会務運営費支出	15,900,000	15,850,000	50,000
・会議会合費支出	2,950,000	3,650,000	-700,000
・管理費内予備費支出	0	0	0
事業活動支出計	73,450,000	63,700,000	9,750,000
事業活動収支差額	8,300,000	16,370,000	8,070,000
《投資活動収支の部》			
【投資活動収入】			
・基本財産取崩収入	10,000	10,000	0
・保証金・敷金回収収入	0	0	0
投資活動収入計	10,000	10,000	0
【投資活動支出】			
・基本財産組入支出	8,310,000	10,000,000	-1,690,000
・什器備品取得支出	0	0	0
投資活動支出計	8,310,000	10,000,000	-1,690,000
投資活動収支差額	-8,300,000	-9,990,000	-1,690,000
《財務活動収支の部》			
【財務活動収入】			
財務活動収入計	0	0	0
【財務活動支出】			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	6,380,000	-6,380,000
前期繰越収支差額	66,629,253	66,629,253	0
次期繰越収支差額	66,629,253	73,009,253	-6,380,000

平成 25 年度 校友会功労者表彰

氏 名	卒業年・学校・学科	支部名	功 績
藤田 英樹 (71 歳)	昭和41年 芝浦工業大学 工学部土木工学科	福井支部	藤田氏は、2013年に会長職を勇退されるまで、5期10年にわたり校友会福井県支部の会長職を努められ、その以前にも副会長職を歴任されました。 これらの間、支部の先頭に立って校友会の活動を活性化することにご尽力され、副会長時には、1997年7月の70周年記念事業「水の章」、小学生を対象にした手作りロボットセミナーの開催、会長時には2013年の「芝浦工業大学 魅力発信講座 IN FUKUI」などの開催や、芝浦工業大学への受験者拡大運動の実施など、本学及び校友会の発展に寄与した功績は大きく表彰に値するものと考えます。
安部 亮範 (70 歳)	昭和41年 芝浦工業大学 工学部電気工学科	高知支部	安部前支部長は、平成4年から同15年まで12年間、副支部長を平成16年から同21年までの6年間高知支部長3代目を努められました。高知支部活動としては、昭和41年に発足して以来47年経ちますがその大半を支部役員に就かれてこられました。本校でもかつての体育会系の輝かしい活躍・伝統の復活を旗印に、「箱根駅伝」出場という悲願を掲げているように、芝浦工業大学卒業生の「絆」を大切に支部活動の普及と発展に多大な貢献をされてこられました。また、社会人としては正和電気株式会社で取締役副社長に就任され電気設備工事関連を通じて高知県のインフラ事業の整備にも尽力され優良工事施工業者として多くの表彰を受賞されています。安部前支部長は、今日、校友会高知支部活動が活性化しておりますのも正しく安部前支部長の足跡を踏襲しているからこそ成り立っているものと確認しております。今回、推薦申し上げます功労賞受賞のお姿を高知支部一同心から切望し、また恒久的な校友会の発展に微力ながら尽くしてまいり所存でございますので、重ねて宜しくお願い申し上げます。
杉山 滋哉 (76 歳)	昭和35年 芝浦工業大学 工学部土木工学科	静岡県同窓会支部	静岡県の校友会支部（正式名称：静岡県同窓会）が発足し、今年で35年となります。本県での会長は第4代中野佳彦会長（平成16年度校友会の表彰を受けた）より引き継ぎ平成12年より平成20年までの8年間、学校の発展と校友会本部、他支部との連携を行い、会の発展に寄与されました。尚、特筆すべきことは静岡県同窓会設立25周年の節目にあたり2003（平成15年）に「あゆみ」を発刊した。

氏名	卒業年・学校・学科	支部名	功績
岡本 嘉行 (76歳)	昭和34年 芝浦工業大学 工学部建築学科	広島支部	昭和34年卒業とともに(株)藤田組(現(株)フジタ)に就職。本社を初め、広島支店、大阪支店に勤務し各要職で活躍されたのち中国生コンクリート(株)に出向。代表取締役を歴任されました。一方、校友会活動に尽力され昭和57年「校友会広島支部」設立時に広島支部建築学科幹事に就任。以来昭和63年から副支部長、平成16年鈴木支部長の後任として広島支部長に就任されました。広島支部長就任後、校友会会員の増強、会員相互の交流を目指したイベントの充実を推進するなど広島支部の発展に多いに寄与されました。併せて中国ブロック各支部間の連携を図る等常任幹事として広域活動にも大いに尽力されています。よって「校友会功労者」に推薦します。
砂川 幸一郎 (75歳)	昭和37年 芝浦工業大学 工学部機械工学科	英交会支部	英交会支部の副支部長として、永年に亘り、支部の発展に献身的に尽くして来られました。とりわけ、後輩の指導を通じ、多くの会員の信望を得て、永続性のある英交会活動を指導して来られたリーダーシップは特筆するものがあります。また、若手の指導を通じ、卒業生の社会での評価を高め、校友会の発展に貢献すると共に英交会在48年間継続できた原動力でもありました。よって校友会功労者表彰に推薦させていただきます。
種田 孝夫 (78歳)	昭和32年 芝浦工業大学 工学部土木工学科	新潟支部	種田氏は、本学卒業後、株式会社福田組に勤務され、県内外の工事現場をご担当され、社会基盤の整備にご尽力されました。勤務のかたわら、同社に入社した後輩のみならず本学卒業の他社の後輩へも分け隔てなく指導にあたり、多くの後輩技術者の育成に貢献されてきました。昭和37年の校友会新潟支部立ち上げ当時から、積極的に支部活動にご尽力され、副支部長の要職を10年以上の長きにわたって務めていただきました。その間、本部総会への出席はもとより、新潟支部と全国他支部との連絡・調整役、新潟支部中越分会の重鎮として後輩の相談及び指導を行うなど、校友会の枠を超えた活動をされてきた実績を持ち、現在、新潟支部の筆頭常任顧問であります。前述のとおり、昭和37年に発足した新潟支部において、発足当時から積極的に支部活動に参加されており、校友会新潟支部の発展に大きく寄与していただきました。また、現在でも大きく貢献していただいております。支部内の常任顧問という、重要な役員として、また本学及び人生の先輩として、後輩たちの良き相談役であり、相談に対する的確な回答及び指導をいただけることから、支部役員のみならず、全会員からの信頼も非常に厚い。
藤内 哲雄 (77歳)	昭和33年 芝浦工業大学 工学部建築学科	北海道支部	藤内哲雄氏は、支部発足当時より役員を務めた。副支部長を務め、過去3代の支部長を支えた。また、支部たより編集に於いても刊行当初より係わり、編集委員長としても手腕を発揮され多くの功績を残されました。

氏名	卒業年・学校・学科	支部名	功 績
柴田 幹男 (76 歳)	昭和32年 芝浦工業大学 工学部電気工学科	熊本支部	柴田幹男氏は、長年熊本支部活動の中心となって活躍され、当初から全国総会へ支部長代理として、数多く出席されています。平成23年からは顧問並びに監査の重責をお願いしています。今後も熊本支部の役員として、支部を支えていかれることを期待しています。
北川 比 (73 歳)	昭和37年 芝浦工業大学 工学部電気工学科	長野支部	1984年（昭和59年）支部創立時は、長野市周辺在住の同窓生が主体の会として活動を重ねてきたが、いつとはなしに会員数が落ち込む頃、1997年（平成9年）に長野支部長に就任された。以来16年間の長期にわたり、支部会員の心の支えとなっていた。長野県は、南北に細長く、また交通機関の貧しいこともあって、一気に全県の組織を作り上げるには困難な一面があった。支部長以下支部役員には、県下をいくつかに分け、地区ごとの組織体をつくり、相互の連帯を作り上げていくという構想があった。この構想を推し進め、2004年（平成16年）に諏訪会（諏訪市周辺）が、2006年（平成18年）に中信会、（松本市周辺）が創立に至り、全県下組織への大きな足掛かりをつくられたのが、北川氏である。
土持 正豊 (享年 70 歳)	昭和40年 芝浦工業大学 工学部電気工学科	(本部) 総務委員会	土持正豊氏は昭和40年に芝浦工業大学を卒業された後、公明党に入社し、その後、東京都議会議員を5期20年努め、その傍ら校友会の常任幹事として、6期18年努められ校友会発展にご尽力をいただきました。また、平成14年からは校友会副会長として、全国総会の開催をはじめとして校友会本部の運営・活性化にご尽力をいただき平成21年5月今後の後輩育成のため役職を辞任し、校友会名誉顧問として就任されました。しかし、平成24年12月23日病氣療養中でしたが治療の甲斐もなくご逝去されました。土持氏のご活躍は現在の校友会の礎であり、校友会功労賞を表彰されるに相応しいと思ひ推薦致します。

平成 25 年度 課外活動指導者功労賞

氏名	功 績
味澤 善朗	2012年10月20日、陸上自衛隊立川駐屯地、昭和記念公園で第89回東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝＝関東学生陸上競技連盟主催、読売新聞社共催）の予選会が行われた。この予選会に芝浦工業大学として創立以来初めて出場し、初出場ながら、全員が完走して、45大学中40位と健闘した。この予選会には決められた標準記録をクリアしているメンバーを最低10名そろえる必要がある。 これまでは部員も少なくほとんど下地が無い状態から出発し、部員の勧誘、選手個々人のモチベーション向上に努め、通常健康管理からトレーニングメニューまで幅広い気配りと指導の成果により予選会の参加に到達したことは、監督の指導の賜物であり、卓越した指導実績・功労と認められる。このため、陸上競技部の味澤監督を功労賞に推薦したい。

平成 25 年度 母校文化会体育会強化育成事業 奨励支援金対象団体

団体名	顧問／監督	功 績
【文化会】 SRDC	顧 問 長谷川浩志	① 2足ロボットの全国大会ROBO-ONEにおいて準優勝。 ② ニソコンmini格闘技部門準優勝、アスリート部門準優勝 ③ 第19回かわさきロボット競技大会（全国大会）ベスト12 など大会入賞多数
【文化会】 Team Birdman Trial	顧 問 君島 真仁	第35回鳥人間コンテスト人力プロペラ機ディスタンス部門 第3位 TV特集・放映により、大学のPRになった。オープン キャンパス、大学開放DAY！等への参加により地域にも 大きく貢献している。
【文化系サークル】 建築研究会	顧 問 澤田 英行	港区建築会館ギャラリーで開催する「建築展」（2012年度で 29回目）の学外の注目度が高い。 部の活動が「建築家」に求められる多元的なものの見方を培 養しており、建築業界に多くの優秀な人材を輩出している。 ① 「幸せ感のあるエクステリア」学生デザイン大賞優秀賞 ② 芝浦工大デザインチャンピオンシップ佳作 ③ JACS住宅設計コンペ佳作 ④ JIA東海支部設計競技学生の部銅賞 ⑤ Hukuoka Design Review ベスト12
【文化系サークル】 場助っ人	顧 問 桑田 仁	東日本大震災ボランティアツアー-参加（岩手県陸前高田市、 40名がれきの撤去作業などに従事） 東大宮クリーン大作戦、さいたま市主催「みどりの祭典」 でのブース出展など、これまでと同様の活動も積極的に行 い、地域の活性化を図っている。
【体育会】 ソフトテニス部	顧 問 井戸川知之	① 2012年度関東学生ソフトテニス春季リーグ8部において全 勝、7部昇格。同様に秋季リーグ7部で全勝、6部昇格。2季連 続の昇格は珍しく、芝浦工大においては数十年ぶりである。 ② 2012年度関東理工系大学のリーグ戦では、春季1部優勝、 秋季1部2位であった。 * 関東学生ソフトテニスリーグ戦 70校以上が参加、関東でも最も大きな大会。 * 関東理子系大学連盟リーグ戦＝参加校19校
【体育会】 陸上競技部	顧 問 味澤 善朗	箱根駅伝予選会出場（大学初）40位
【体育会】 空手道部	顧 問 勝木 太	① 東都六工業大学リーグ団体3位・女子組手準優勝 ② 全日本理工科系大学空手道大会女子組手3位 女子型3位 その他、品川区民体育大会、国際空手道尚武会全国大会で 入賞するなど、活発に活動している。
【体育会】 弓道部	顧 問 伊藤 和寿	① 全関東学生弓道選手権大会男子個人の部3位 ② 埼玉七大学戦男子団体準優勝 ③ 埼玉七大学戦女子団体優勝
【体育会】 サッカー部	顧問 幡野 明彦	① 埼玉県大学サッカー連盟リーグ戦2部準優勝（1部昇格、リーグ最少失点） 1・2年生主体のチームだが、よく戦っている。また、大 宮校舎クリーンキャンペーンに毎年必ず参加しており、大 宮市内の中学校にサッカーの出前体験講座を行うなど、社 会貢献活動にも積極的である点も評価。

芝浦工業大学からのお知らせ

理事長ごあいさつ



学校法人芝浦工業大学
理事長

五十嵐 久也

今年の入学志願者は過去最多で37,000人に迫る勢いであった。私学経営の根幹をなすものは入学者確保であり優秀な学生を集めることが出来るか否かであろう。尤も、優秀な学生とは何をもって判断するのか難しいところである。学業成績だけではないということは確かである。多くの志願者を短時間で合否判断しなければならぬわけで点数を取った者が入学時にとりあえず優秀ということになる。学部三年生に

なると就活が始まる。ここで一番効いてくるのは入学以降何を学んで身に着けたかということだろう。

二年間の学生生活でその後の人生を左右することが決められるのか甚だ困難なことである。少なくとも四年になってからにしてほしいものだ。それにしても本学の就職は他大学と比して強いと言われるが一般的に就職率の比較で言われることが多い。

企業によっては院生が結果として採用される例が多いが、問題は学部四年間で何を学んだかが問われなければならない。今年の新入生がどの道に進むのか、すぐ来る就活に備えて力を込めて取り組む道を決めて欲しいものだ。理工系である以上、専門性を採用側は見るであろう。何か一つでも自信を持って採用担当に語ることが出来なければ問題意識が無いと見なされ迫力が出ない。当然魅力が無いことになり他大学の学生を凌駕することが出来ない。人生においてこの四年間しか勉学に専念出来ないのだからとりあえず猛勉強することが就活で成果をおさめることに繋がると言える。

このことによって就職率のみならず就職力をあげることが出来れば、入学志願者や親が本学に進むことが自立への道を歩める、と評価し結果として本学の経営が安定したものになるだろう。86年前に有元史郎が創立した本学が幾多の困難を乗り越えられたのも、学生時代に卒業生が真剣に学び「社会に学び社会に貢献」してきたからに他ならない。



豊洲キャンパス

グローバル人材



芝浦工業大学
学 長

村上 雅人

先日、卒業生のひとりが大学に顔を出してくれました。彼は、40歳を越えたばかりですが、外資系企業の重役（director）を勤めています。アメリカでMBAを取得した俊英です。さぞかし、小さい頃から優秀で英語が堪能であったのだろうと思っていたので、話を聞いて驚きました。

彼は、芝浦工業大学に入るまでは英語が、まったく苦手だったそうです。ところが、大学一年のときに、大学が提供している一ヶ月の海外

研修プログラムに参加して、自分は世界で活躍できるひとになりたいと強く思ったというのです。見るもの聞くものすべて新鮮で、輝いていた。そして、向こうで出会った海外の人たちとの交流も大きな刺激になったそうです。

その後は、英語の勉強にも積極的に取り組むようになり、機会があれば、ぜひ海外にも留学したいと考えていたそうです。そこで、大学の四年間は勉強の傍ら、バイトでお金を貯め、大学院に進学したときに、本学が提供する姉妹校との留学制度を利用して一年間の海外留学を果たしました。

修士を取得して、ある企業に就職しましたが、世界で活躍できそうにもないということで、なんと、あっさり退職しMBAをとるためにアメリカに渡ったのです。確か、この時、お父さんから相談を受けたことを覚えています。

わたしは、「やらないで後悔するよりも、やって後悔するほうが人生には大切です。息子さんを信じましょう」とアドバイスしたことを覚えています。もちろん、不安はありましたが、彼の強い決意を変えることはできそうにありませんでした。それならば、応援すべきと思ったのです。

その後、彼は、大成し、いまの地位を得ました。そして、彼から嬉しい言葉を聞きました。

「自分のいまがあるのは、芝浦工業大学のおかげです。感謝しても感謝しきれません。そして、いま強く思うのは、後輩たちのためにできることは、何でもしてあげたいということです。それが、自分を育ててくれた大学への恩返しです」と。

彼に続くグローバル人材を育てることが大学の使命であると思っています。



芝浦キャンパス



大宮キャンパス

国際学生寮がオープン

留学生と日本人学生が共同生活を送ることで国際感覚を養い、グローバル人材の育成を目指す「芝浦工業大学国際学生寮」が4月から運用が始まりました。

施設は5階建てで、2階から5階までの各階には各学生の個室のほか、シェアキッチンやコモンルームと呼ばれる交流スペースがフロアの中心に位置し、異文化コミュニケーションを図ることができるスペースが設置されています。各フロアには、RA（レジデントアドバイザー）という先輩学生と一緒に生活し、日常生活や学業などの相談に応じてアドバイスなどを行います。また、寮にはイタリア人と日本人の夫婦が管理人として常駐しており、学生の寮生活をサポートすると同時に、日常的に英語でのコミュニケーションが可能となっています。寮では、学生を中心に今後さまざまな企画が予定されており、本学のグローバル化の拠点となることが期待されています。

卒業生の中には、かつて大宮キャンパスに学生寮があったことを記憶している方もいるかと思います。1985年の閉寮以来、本学にとって28年ぶりの学生寮となります。



国際学生寮の外観



コモンテラスで各フロアがつながっている



部屋にはキッチンがないため、寮生はこのシェアキッチンで料理を行う。各国の料理を披露し合ったりしながら、異文化交流を行う

このコモンルームは各フロアにあり、学生たちはここで食事をしたり、くつろいだりと交流を図る場所として活用されている



約17㎡の洋室には、ベッド、エアコン、机、椅子、トイレ付ユニットバス、クローゼットなどの設備が整っている

芝浦工業大学からの情報発信

学校法人芝浦工業大学では、法人の取り組みや教育・研究、学生・生徒の活動、イベントなどの本学をとりまく情報を、さまざまな媒体で広く発信しています。

広報誌「芝浦」

これまで、法人広報誌「S.I.T.BULLETIN」と卒業生向け広報誌「芝浦便り」という2つを発行してきましたが、今年度よりこれを統合し、新たに「芝浦」という広報誌を発行する運びとなりました。年3回、卒業生の皆さまのご自宅にお送りしますので、どうぞご覧ください。



Webメディア

芝浦工業大学のWebサイトでは、これまでの公式ページとあわせて、あらたに「SHIBAURA Online」という、学校法人芝浦工業大学の日々の取り組みやニュースを素早くお届けするページを設けました。また、ソーシャルメディアであるFacebookやtwitter、LINE、Youtubeなど、さまざまなメディアも使いながら広く情報を発信しています。各メディアをご利用の方は、ぜひご利用ください。



Facebook : <https://www.facebook.com/shibaura>

Twitter : @sit_pr_staff

LINE : @shibaurait

Youtube : shibaoramovies

あわせて、月1回、法人の最新ニュースをお届けするメールマガジン「しばうら通信」の発行を行っております。配信をご希望の方はWebサイトで登録いただくか、企画広報課までご連絡ください。

・情報提供のお願い

芝浦工業大学にとって、これまでの10万人を超える卒業生が社会のさまざまな分野で活躍していることが、現在の大学のブランド力を築き「就職に強い大学」としても高い評価を受けています。

そこで企画広報課では、卒業生の皆さまの社会での活躍などを、広報誌やWebサイトで紹介し、本学の広報にご協力いただければと考えております。

つきましては、卒業生が社会で活躍している情報などがありましたら、企画広報課にぜひご連絡ください。

TEL : 03 - 5859 - 7070

FAX : 03 - 5859 - 7071

koho@ow.shibaura-it.ac.jp

同窓会応援パックのご案内

卒業生支援の一環として、芝浦工業大学では同窓会をサポートする「同窓会応援パック」を実施しています。

開催通知の作成・発送、出欠のとりまとめ、参加者名簿・名札の作成、会費の徴収、キャンパス見学の案内、キャンパス内カフェテリア・生協での食事手配など、同窓会幹事の方の準備作業を全面的にサポートします。

煩わしい手間は大学に任せて旧交をあたためてください！

同窓会応援パック（基本パック）

見学・会食（校舎内）プラン お一人様 5,000円（基本パック料金）

会費は全額大学への寄付という形にさせていただきます。

会費を大学指定口座に振り込むことによって出欠の連絡となります。

大学にて振り込みの確認を行いますので、幹事の方が会費の徴収等をおこなう必要はありません。

～幹事に代わって大学が行います～

開催通知発送

出欠取りまとめ

参加者名簿作成

名札作成

キャンパス見学案内

記念品の用意

記念写真撮影

会食の手配（別表参照）

各キャンパスのプラン	
豊洲キャンパス	キャンパス内カフェテリア
大宮キャンパス	キャンパス内生協
芝浦キャンパス	ホテルグレイスリー田町プラン（イタリアン） （お一人様6,000円）
	ホテルJALシティ田町東京プラン（和食） （お一人様6,000円）

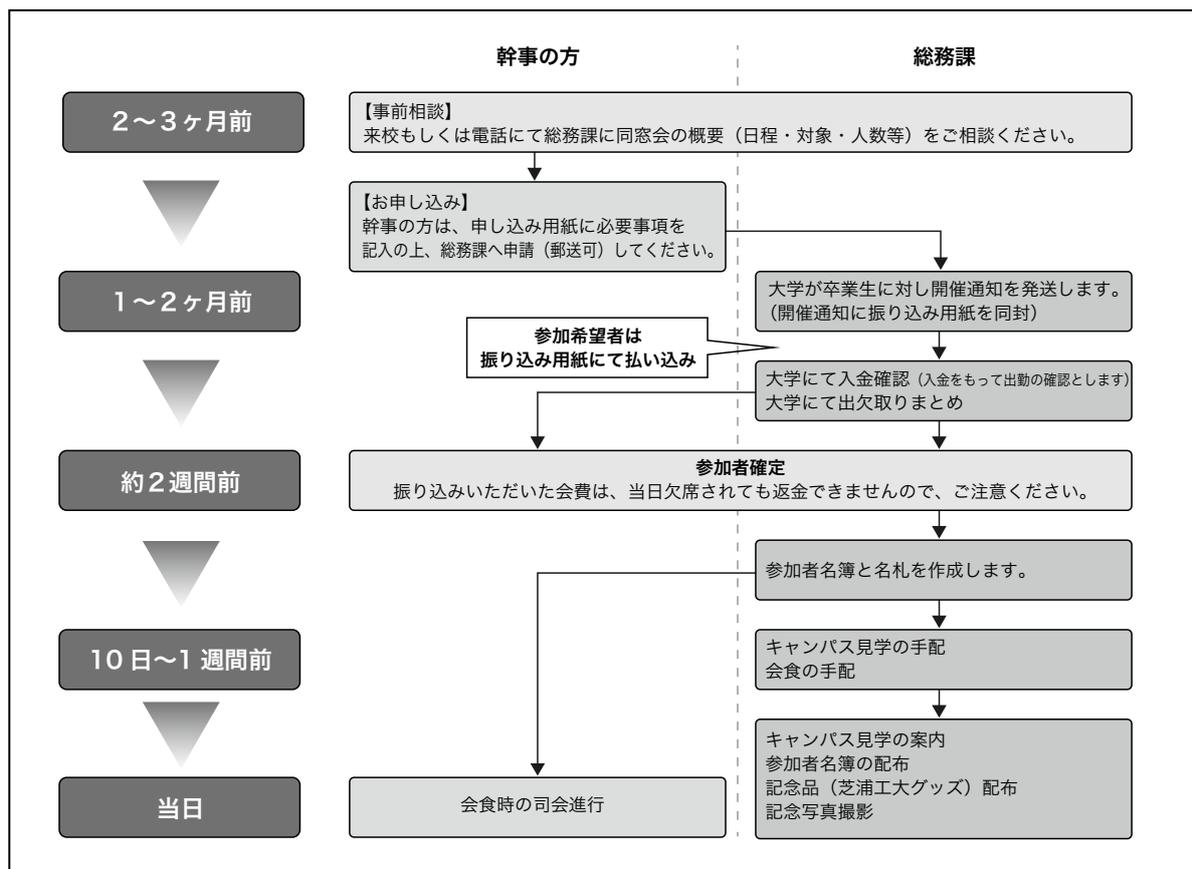
■基本パックの飲み物はお一人様につきビール1本です。飲み物などの追加分は別途請求となります

■オプション（料金別途）として、宿泊ホテルの手配・教員等への参加呼びかけ・講演依頼等もお引き受けしますので、ご相談ください。

■基本パックは10人以上から受け付け可能です（日曜・祝日は除く）

■同窓会実施日につきましては、学内行事等の都合によりご希望に添えない場合があります。

～開催までの手順～



※参加者確定数にて料理などの発注をしますので、当日欠席された方がいても、その金額をお支払いいただきます。

一度振り込みされた会費は返金できませんので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先：学校法人芝浦工業大学 総務部 総務課

TEL:03(5859)7010 / FAX:03(5859)7011

E-mail:somu@ow.shibaura-it.ac.jp



芝浦工大会津高原高杖セミナーハウスのご案内

芝浦工業大学は福島県南会津郡南会津町に「会津高原高杖セミナーハウス」を所有しております。

会津高原は、春は新緑、夏はハイキングや釣り、秋は紅葉、冬はスキーとオールシーズン楽しめます。

研修やレクリエーション、保養にも最適です。ぜひご利用ください。

<芝浦工業大会津高原高杖セミナーハウス>

〒967-0315 福島県南会津郡南会津町高杖原740

宿泊定員：120名

研修室：大研修室66名1室、中研修室30名2室、小研修室15名2室

客室：和・洋室 各種タイプ24室

食堂：120名収容

温泉浴場2室(露天風呂付)

卒業生の利用料金：1名あたり3,700円(1泊2日 夕食朝食代含む)

(別途入湯税150円が必要です)

【宿泊料金表】

(消費税込み 単位:円)

	宿泊料 (1泊)	食事代	
		朝食	夕食
1 学生・生徒・教職員 (旧教職員を含む)	1,000	一律600	一律 1,600 (特別料理 追加: 1,500)
2 在学生家族・卒業生・創立70周年記念 事業寄付者	1,500		
3 教職員家族(中学生以上)・卒業生 家族・記念事業寄付者家族	3,000		
4 その他、法人が特に認めた者	4,000		
5 子供(3歳以上~小学生まで)	1,000		
6 上記1~5までの日帰り料金	1日につき1,000		

※食事不要(素泊り)の場合は、宿泊料のみを支払うものとする。

※12月31日夕食から1月3日朝食までの食事代は、上表にかかわらず、正月特別料理として、朝食1,100円、夕食2,600円の一律料金とする。

※宿泊は1回につき3泊4日を限度とする

【申込方法】

高杖セミナーハウス管理事務室へ、電話で申し込んでください。

電話予約の受付時間は「午前8時から午後8時まで」となります。

【使用料金の支払い方法】

下記指定口座へお振り込みください。

当該金融機関の受領書を高杖セミナーハウスフロントに提示してください。

●郵便振替口座番号 00190-7-78046 芝浦工業大学高杖セミナーハウス利用料口

●銀行振込口座 みずほ銀行 浜松町支店 普通預金3432459
芝浦工業大学セミナーハウス利用料口

【申込受付期間】

利用開始日の3か月前～5日前まで

申し込み後、取り消し又は変更が生じた場合は速やかに

高杖セミナーハウス管理事務室に連絡してください。

使用開始日の3日前までに届け出た場合に限り使用料金を返還します。

洗面具・タオル・寝間着等はございませんので、お手数ですが、ご用意ください。
館内の利用はセルフサービスを原則とします。



南会津八総「地藏桜」



セミナーハウス近くのそば畑



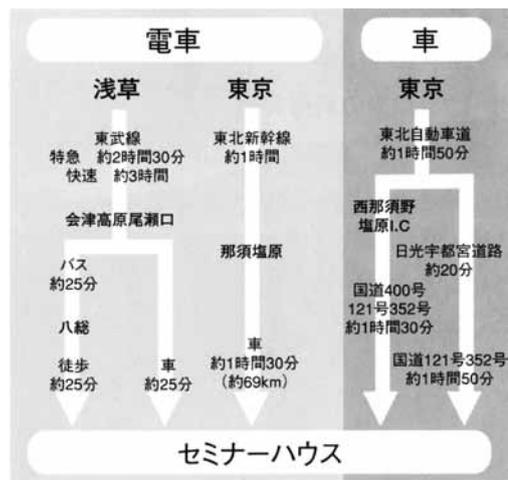
館岩中学校周辺の紅葉



高杖スキー場グレンデより



高杖セミナーハウス



※八総まで、セミナーハウスの車で送迎します。(約5分)

同窓会の相談にも応じます。ぜひご利用ください。

○ご利用に関するお問合せは学校法人芝浦工業大学総務部総務課にお願い致します。

TEL03-5859-7010 FAX03-5859-7011

E-mail:somu@ow.shibaura-it.ac.jp

○ご予約・空室のお問合せは会津高原高杖セミナーハウスにお願い致します。

TEL0241-78-2793 FAX0241-78-2796

第2回 実学サロン

テーマ：「ウォッシュレットの企画・開発を担当して」

日時：平成24年9月28日(金) 18:30



講師
吉久保 誠一
博士(学術)

【略歴】

1964年 芝浦工業大学 機械工学科卒、
同年 TOTO 入社。
1990年 取締役商品企画本部長
1997年 常務取締役マーケティング本部長
2000年 専務取締役、事業統括、デザイン、商品企画担当
2001年 退任
2003年 芝浦工業大学教授に就任
2012年 退任
現在、芝浦工業大学客員教授、岩手大学客員教授、森村商
事顧問、JST 評価委員他

“ウォッシュレットの企画、開発を担当して”

—市場を創出し、ニーズを起こす取り組み—

芝浦工業大学総合研究所客員教授
博士(学術) 吉久保 誠一

今回は2012、9、28日の第二回東京支部講演会でお話ししました要点についてまとめて見ました。技術をベースにビジネスを創造していくお仕事をご担当している皆様に少しでもお役に立てれば望外の喜びです。

1、技術とビジネスとの関係

最新の技術を開発あるいは調査し商品化、ビジネス化で成功させるためにはそれぞれの段階で重要なポイントがあります。特に重要なことはテーマの設定です。テーマ設定、狙いはビジネス成功の“カギ”であり、効率的ビジネス運営の第一歩です。

ビジネスと技術の関係には2つの方向性があるとされています。第一は一般的にマーケットインと呼ばれるもので、商品の機能向上をベースに、マーケットニーズに対応させる技術を

開発、商品に組み込むことによりビジネスを拡大、利益確保を狙う考え方です。一方、シーズアウトについては新しい強力な要素技術をベースに、多角的にビジネスを拡大させる考え方があります。しかしながら、これら両者の関係は大変近いものがあり、明確な区別は難しいと考えます。商品的な差別化を狙うための新技術は、それ自体、他の分野にも応用できる可能性があり、マーケットインとシーズアウトの間にはきわめて強い結びつきがあります。この関係について新しい市場と文化を創出したウォッシュレット(WL)を事例に取り上げ分析してみたいと思います。

1-1、技術探査の方法

自社で研究開発した技術のみならず、世の中に存在する技術を調べる必要があります。ではどのようにして調べるのでしょうか。

(1) 技術シーズ情報は、一般紙・専門誌を含めた新聞、専門誌、学会誌、特許公報等があります。このような一般の情報に対して、研究者・技術者・経営者が読み、理解することが必要です。しかし重要なことは、世の中にあふれている各種情報の中より、良質な情報を取り上げ、ビジネス化するためのノウハウです。たとえば、新聞情報について、米国唯一の全国紙である“Wall Street Journal”を例にとってみたいと思います。

政治・経済の分野は除いて、科学技術分野の紹介記事については、ほとんど例外なく担当記者の名前が“written by…”というように明記されています。大変重要なことであり、また価値のあることです。見逃してはなりません。技術特定の第一歩になるからです。もちろん、周辺の状況、背景の事前研究が必要なことはいうまでもありませんが、高い質問のレベルが担当記者を動かすことになるのは当然であり、大変有効な方法であるといえます。

ただし留意点として、シーズ情報は一般的に早すぎるものが多く、技術・ビジネスに関するものはやや遅いもの見られます。また実現性・経済性については一般に考慮されていないがあることを留意しなければなりません。(図—1)

図—1、技術探査の方法と留意点

(1-3) 技術探査の方法

技術シーズ ソース

Wall Street Journal

学会誌

専門誌



シーズ情報は一般に早いものが多い
 技術、Business方法は遅いものが多い
 実現性、経済性は一般に無視

1-2、情報の入手～醸成のサイクル

このようなステップで収集した情報はまだ、いわゆる生データです。技術の内容、評価そしてビジネスでの実現性を上げるために、関連の専門家に会うことが必要です。

第1ステップ 情報の収集

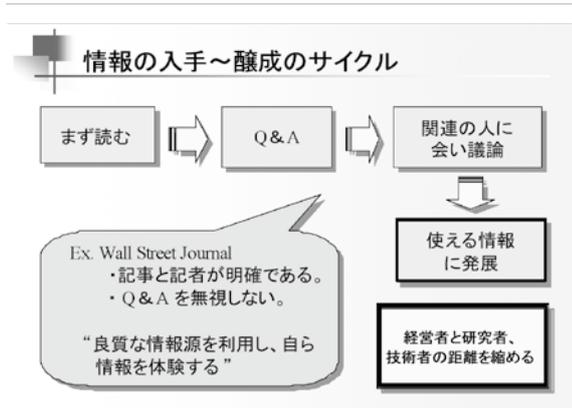
第2ステップ Question & Answer

第3ステップ 関連の専門家に会う

この3ステップをきちんと踏み、評価することはごく当然ですが、実際のビジネスでの失敗を振り返ってみると、いずれかのステップに問題が残っている場合が多く見られます。内外の情報収集のベースは文献等を読むことがスタートになりますが、単なる紹介記事の段階では、知識の上積みにはかならず、ビジネス立場から見ると価値が低い情報といわざるを得ません。

これ等のステップについて経営者は理解し、技術者・研究者との距離を縮めることが必要です。良質な情報をつかみ、自ら情報に接することがビジネスの第一歩であるといえます。(図—2)

図—2、情報醸成のサイクル



1-2、今後のビジネスの方向性

世の中の流れをみるといっても、いろいろな見方、分析方法があることは当然です。技術にせよビジネスにせよ基本的に当該分野の歴史的研究は不可欠です。対象とする分野の歴史を見ることにより、ある程度先見が可能であるといえます。

一つの見方ですが、技術の流れは“人体に”例えられるのではないかと思います。(図—3)

産業の発展は先ず、人間の力を軽減もしくは増大させるため手足の動作を代替することがスタートであり、この装置を考案、完成、実用化させた国家或いは企業が世界を支配することが可能でした。古くは古代のエジプト、ピラミッドの時代に利用されたベアリングの起源になる“コロ”、そして大量の力を発生させるスチームエンジン・内燃エンジン、さらには各種金属・合金・プラスチック材料が産業を支え、発展してきたといえます。このステージを第一ジェネレーションと呼ぶこととします。

第2ジェネレーションはレーダー (Radio Detection & Ranging)、そしてコンピューター&コミュニケーションを中心とする情報産業であり、人間の身体にたとえると、眼、耳、口そして頭脳の一部にまで産業が入り込んだと見る事が出来るのではないのでしょうか。現在全ての産業は、この情報、通信そしてデータ処理がなければ存在し得ない状況であり、これらの技術の利用・応用が、既存のビジネスを発展させ、また新規の産業を創出している時代です。

この次のステージ、すなわち第3のジェネレーションは、より身体を中心に向かった技術、ビジネスが展開される状況に入りつつあるといえます。2004年の“ヒトゲノム完全解読”が、まさにその前兆を劇的に表しています。

その詳細をここで述べることは困難ですが、330億個の塩基と呼ばれる物質が二重螺旋構造につながっているわけで、その配列を日米欧など六カ国の科学者が突き止めたことは存知のとおりです。また京都大学の山中教授の発見されたiPS細胞は新薬の開発にとどまることなく、今後多くの新しいビジネスを創出することになるでしょう。

何故このように経験と実験をべにした生物分野の細胞研究が、このような発展・展開をみせて大きく変化し、“Data Driven Science”の領域に入ることが出来たのでしょうか。感と経験的な学問とされていた生物学が、物理化学的な領域で劇的に変化できたのは、電子顕微鏡等各種測定、分析機器の発展と、大量のデータを集積・分析することの出来るコンピューターに負うところが大きいと思います。

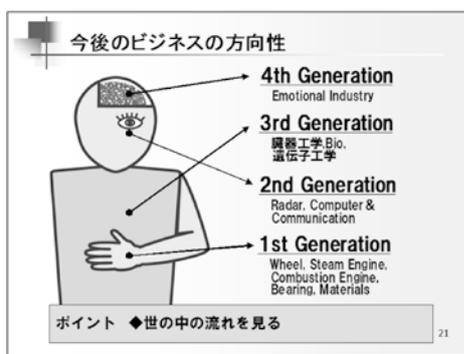
今後ヒトゲノム、人間設計図をビジネスにつなげる競争は、生物学の範囲を越え、物理化学を加えた幅広い科学者・技術者の組み合わせによる厳しい競争になるでしょう。

もう一つの変化あります。脳の頂点にあると

いわれている情緒 (Emotion) をビジネスにつなぐ分野です。一般に芸術は、特別の才能のある人が特別の分野を対象として、色、形、音などを組み合わせ、精神的な分野で存在するものといわれています。

しかし今後、人間の持つ情緒、“Emotion”を産業につなげることが今後重要なビジネスファクターになることが予想されます。また、デザインが経営の重要なファクターになりつつあることを見落としてはなりません。これ等の動きを、ここでは第4ジェネレーションと呼ぶことといたします。

図—3、ビジネスの方向性



このように産業の流れを人の身体に例えることが出来ますが、ビジネスを運用或いは創出する場合、このような動きを常に頭においておくことが必要です。

1-3、研究開発 (Research & Development) からビジネスへ

R&D からビジネスまでを一般的に分析してみると4つのステップに分解することが出来ます。研究開発が第一段階であり、狙いの商品に対する研究をベースに、自社及び関連する世界の技術を組み合わせ、改良することに重点が置かれます。

楽しいステージです。第二段階は Feasibility Study の段階ですが、注意しなければならないことは、希望的観測を中心に、夢になりがちな傾向があることです。

また、経営者が留意すべき点ですが、時間的なファクターを入れることを忘れてはなりません。

ビジネスへの段階に進むわけですが、その成功要因は良質なテーマであることが前提ではありますが、マーケティングとの関係が極めて強くなっていること、人材との組み合わせ、すなわち適材適所に留意しなければなりません。市場参入後、ビジネスは激しい競争下におかれます。競争他社との競争、時間との勝負、”Profit

& Loss”と“Balance Sheet”で毎月、每期極めて冷静に評価される優勝劣敗の世界への突入になるわけです。(図—4)

これ等のファクターをお尻洗浄機、“ウォッシュレット”を事例に見てみましょう。

図—4、ビジネスへのステップ

②) R&D から Business へ

R&D	FS	Business Start	Business化
目今のR&D+α 世界の技術 発掘→商品化 発掘→組合わせ 改良	夢になりがち 希望的観測	マーケティング が勝負 適材対応	競合 経済性 BS&PL評価



2、ウォッシュレット (お尻洗浄機) ビジネス

トイレをユーザーに接近させ、トイレ文化を大きく変化、前進させた商品にウォッシュレット (以下WLと略す) があります。

WLとは何かから説明しなければなりません。端的に説明するならば、“おしり”を洗う装置のことです。日本では入浴習慣は大変ポピュラーであり、かつ入浴という行為を文学的レベルまで高めたことは、世界に類を見ません。またシャワーは、給湯設備と住宅の機密性の向上に伴い、一般化されていることはご存知のとおりです。しかし“おしり”を洗う習慣も設備も、過去全く日本には存在しませんでした。

この商品の基本的な機能は、

Wash (洗浄)、適温水の出湯

Air (乾燥)、おしりの乾燥

Seat (暖房便座)、便座の暖房

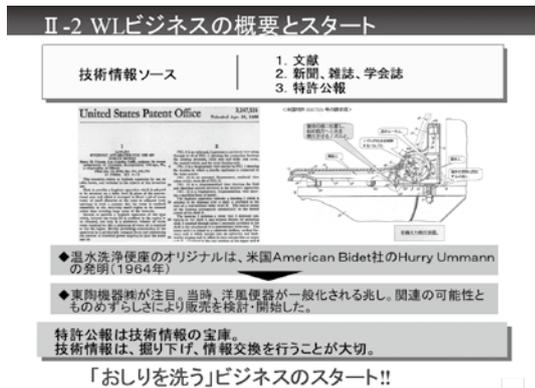
の3つの機能より構成されています。これらの機能を技術的にどのように確保、改良するか、またこの機能を市場に、使用者にどのように訴求するか、また潜在ニーズを合致させ、ビジネスとしての一つの基盤を作っていったかを分析してみたいと思います。

2-1、WLの起源

1964年、米国にWLのオリジナルを見ることが出来ます。米国“American Bidet社”のHurry Ummanという技術者が高齢の母親のケアをするため、今日のWLの原型を考案、開発、商品化すると同時に、実際に使用してみたといわれています。“ケア”に対する一つの解決策を人的サービスに求めることなく装置の開発につないだことは、大変アメリカ的であると思います。1964年に特許を出願、U.S.Pat. No.3247524です。

その内容は請求項目13より構成されており基本的な要件をおさえた良質の特許であると評価できます。すなわち、斜めにノズルが出る構成で、温水ヒータを組み込み、水の開閉バルブをもうけ、便座を便器に取り付けて使用するものであり、現在のWLの基本要件をほぼ包含している内容です。(図-5)

図-5、WLに関する特許と構造概要



このPATに注目、調べたのが米国に駐在する日本の商社マンでした。年間数十万件の出願件数のある米国特許の中より、このPATに注目、独占販売権を確保、ビジネス化までつなげるべくトライしたことは大変評価できる仕事であり、またこの技術、商品を国内に導入、販売するために東洋陶器(株)に紹介したことも、タイミング的にも或いはパートナー的にも良い選択でした。当時の商社マンのレベルの高さ、あるいは貪欲なまでのビジネス発掘業務の激しさを彷彿させるものです。

一方、この技術の紹介をうけた東洋陶器(株)の反応はどうであったでしょうか。当時の担当者の当該品に対する技術、商品価値に対する判断は大変素晴らしく、また異常なほどの執着と集中がビジネス発展の第一歩を築いたといえます。このように、数ある情報の中より有効な情報を選択、評価しテーマ設定につなぐことは、限られた経営資源の有効利用という点からも大変重要なことです。

特許公報・新聞・専門誌は、技術情報の宝庫であるが単に読むだけでは知識の蓄積にしかならず掘り下げ、意見交換を行うことがビジネスへの接近の第一歩であることは前述のとおりです。

2-2、ビジネス創出のプロセス

スタートより20年で累積販売台数2000万台、ビジネス900億円/年の規模に成長しております。現在は米国、中国そしてアジア諸国で展開、世界商品にすべく展開中ですが、マーケティング

グプロセス的に見ると、国内は“S字カーブ”の第二発展期に入っており、今後のビジネスを大きく発展させるための各種施策が研究、実施されています。導入・拡大・定着そして発展の各ステップを分析、問題点或いは成功のポイントを検証してみたいと思います。WLの成長の歴史を見ると、商品の成長・拡大には必ず“キー”となるテクノロジーが存在していることがわかります。

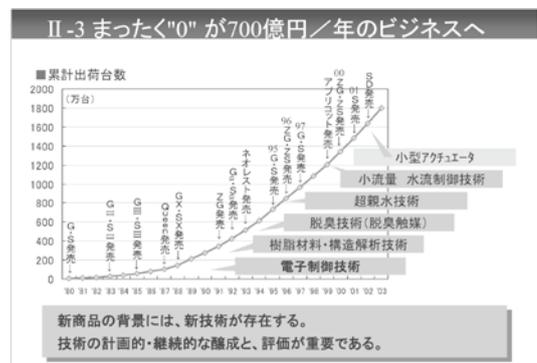
具体的に見てみますと、

- (1) 品質の確保については電子制御技術の確立
- (2) 小型化、コスト改善に対しては機能材料、構造解析技術の展開
- (3) 脱臭効果の確保には脱臭触媒の研究、開発、商品化の達成
- (4) 温水の連続使用に対しては小型アクチュエータの開発

等がビジネスと強い相関関係を持っています。

新商品の背景には新技術が存在し、技術の計画的、連続的な研究と開発がビジネスの発展を支えている事が理解できます。(図-6)

図-6、新技術と新商品との関係



WLの場合、基本的な要件の中に、日本人の“お尻を洗う”という潜在的ニーズがあったことを掘り、実現したことがベースにあります。しかし、一号機を投入して以来、市場の要求に合わせて新技術を開発、継続的に投入したことが大きな成功条件であったことを見逃してはなりません。“商品の顔は優しく、中身の技術には厳しく”の精神が、使用上の抵抗感を極めてゼロの近いものとし市場を創出していったベースになっています。

また要素研究の研究開発のより、誕生した脱臭触媒&脱臭ファンそして、セラミックヒータをベースにスタートしたニューセラミック技術は、それ自体独立したビジネスとして発展しつつあることは技術の広がりとしてビジネスの創出には強い相関(Correlation)があることを物語っ

レーム対策への大幅シフト、販売チャネルへの説明とお詫び等々、付帯的に発生した業務対応に忙殺され、本来の開発業務を停止しなければならない状況に陥りました。

経済的な面よりみても、本来商品から得られる利益は“0”、クレーム対応費は、人件費、経費よりみても膨大、技術者のシフトによる開発業務の停止、在庫品の処理、また本来の営業活動にまでも悪い影響を与える重大問題でした。

技術水準と品質のアンマッチは、ビジネスの命取りになります。エレクトロニクス技術導入を例にとってみると、外部協力企業より購入した機能部品を仕様書に基づいて機能チェックを行ったわけですが、使用条件、特にWLの場合、“水”との関係が密接、雰囲気的に見ても一般エレクトロニクス部品の使用条件をはるかに超える悪条件でした。

トイレ周りでの使用条件は当事者・関係者ではごく当たり前であるが、エレクトロニクス関係分野では想像を超える悪条件であった事を見逃していたわけです。外部技術の、自社技術とのマッチング不足は商品全体欠陥につながることを肝に銘じなければなりません。

品質の確保と安全性より見て、何れの技術を採用するにせよ長期間の安全性の維持は商品化、ビジネスの絶対条件になります。

重要なことは技術とマーケットのマッチングです。

2-4、マーケティングと技術開発

WLビジネスがスタートした時点では、市場との関係、技術者と商品の組み合わせが具体的なマーケティング戦略のもと行われたとは言えません。

- ・WLの普及とその時代背景
- ・市場の背景と状況
- ・商品仕様の研究

等についてみていきたいと思えます。

WLの普及、発展の後ろには水洗トイレの急速な普及がありました。水洗便器のメーカーとして、WLは周辺商品の一つとしてビジネスとして極めて近いジャンルに存在していました。ビジネスとしてドメインを大きく逸脱しないことは大切でありマーケティング的に見ても重要です。

水洗便器ビジネスの中身を見ると和風水洗便器が急速に減少、洋風水洗便器が主流になりつつあることも、マーケット的に見ると良い環境でした。このように狙いの商品の周辺の市場動向、技術水準に把握、中核となる組織体の確立、明確な目標設定は、ビジネス成功の第一歩と見

て良いでしょう。

市場の背景をマーケティング的にみると、初歩的な第一次マーケティング、量産開始時ににおいて商品の認知拡大を狙った第二次マーケティングそしてエンドユーザーの要求をベースにした商品企画より、R&D、デザイン、生産、販売まで連動させコンカレント的に進める第三次マーケティングの3つのステップに分類することが出来ると思えます。

1、第一次マーケティング(ビジネススタート時のマーケティング)

WLの実際の使用者の実態はまだ把握されていませんでしたが、特定の需要、痔の患者、産後の女性の方々に多く使用されていることは、商品の足跡結果よりも確実でした。1980年のはじめ、商品価格7.9万円は高額商品であったが、PRを全く実施していない中でも、500台/月前後の出荷が継続的に続き、またジリジリと増加する傾向が見られました。消費者の潜在的な需要、“Wants”を示しているものと見ることが出来ましたが、中でも特筆できる二つの動向を見逃すわけには行きません。

一つはリピータが多いことです。一度WLを使用した顧客からの再度の注文比率が高く見られたことです。

二つ目は強い修理要求です。故障に対するクレーム内容が叱責より迅速な修理要求が強かったことです。

“何とかお湯が出るようにしてくれ!”という、むしろ丁寧な修理依頼が見られました。大変重要な情報であり、メーカーとしては極めて敏感に反応しなければならない事項です。一度使用したお客様にとっては不可欠な商品、そして生活習慣になる可能性のある商品の兆しでした。

マーケティング的には絶対に見逃してはならないポイントです。“強い修理依頼”をハードウェア的に調査すると、使用部品、そして構造上の問題が明らかになりました。大部分の問題が水と制御、電気回路周辺に集中しており、品質の確保には制御系、電気回路系を確実にすることが絶対条件です。電子技術者の不足、商品に対するノウハウ不足を可及的速やかに対応しない限り、事業としての基盤が形成されないことが、WL担当部門に限らず社内の共通認識となったわけです。

重要事項、問題点の社内共有化は、ビジネス成功の前提です。

まとめてみると、商品認知度が低く、特定顧客よりの情報がベースの場合小さな“兆し”を

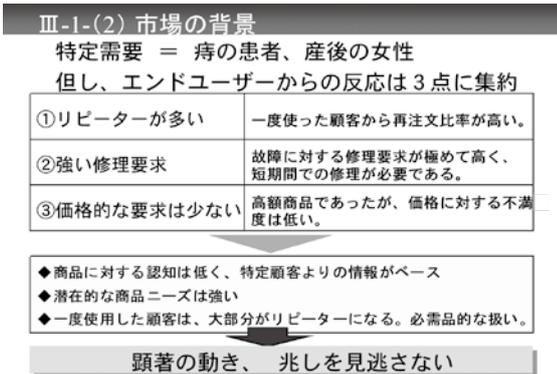
見過ごしてはなりません。

今回のWLの場合、

- ・リピーターが多い
- ・強い修理要求
- ・価格的な要求の低さ

はマーケティング的に見ると重要事項、潜在需要の存在でした。(図—8)

図—8、ウォッシュレットの潜在需要



2、第二次マーケティング（発展期、黎明期のマーケティング）

技術と商品、そして商品と市場、商品と顧客との関係を把握することが、ビジネスの確立の必須条件であることは良く知られたことです。ネーミング、プライシング、プロモーション、販売予測等を組み合わせビジネス推進をしなければなりません。

コスト+経費+利益=価格という、積み上げ式の価格設定が、WLのスタート時の原価構成でした。WLに対する使用者も“お尻を洗う”必要性を感じるユーザーが性能・機能に対し注目し購入した時代であり、この時代のマーケティングを第一次マーケティングと呼ぶことといたします。

一般のニーズ把握に対しての注目度は低く、技術オリエント的なビジネスであり、商品認知策については単に総合カタログに記載するのみの、極めてプリミティブな状況でした。しかしその商品、WLの機能は、“お尻洗浄”、“お尻乾燥”、そして“暖房便座”まで備えた欲張ったものであったにもかかわらず研究、開発、生産までの集約、一元化が行われ体制としては不十分でした。

市場に対し、どのような価格帯の商品をラインアップすべきか、商品のネーミングをどのように考えるのか、どの販売チャネルを重点とすべきか、商品認知策の手段など何れも重要問題ですが研究は主として販売部門で行われていま

した。

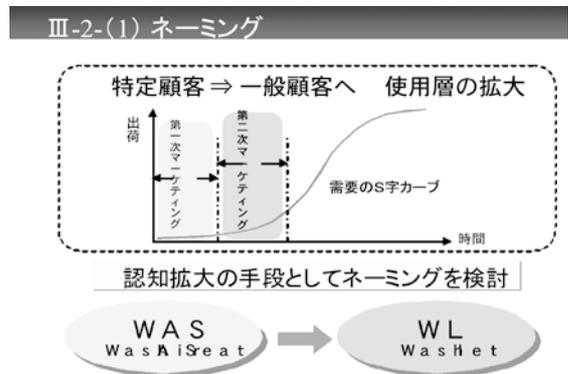
(1) ネーミングについて

お尻を洗う Wash、乾燥する Dry そして暖房便座の Sheet の頭文字 WAS が当初のWLの商品名称でしたが販売店、社内の営業担当者の評判は芳しくありませんでした。むしろ不評でした。

社内各部門からの多数の提案の中より、営業部門で検討の結果、“Washlet”を採用、決定されました。

現在は国内、中国、アジア諸国、米国でWLビジネスを展開中ですが何れの地域でも受け入れられており、良いネーミングであったと評価できると思います。WLビジネスに対する生販連携の好例であり、以後の関係、相互信頼確立ご基盤が出来たと同時に以後の発展を支えることとなります。“ネーミング”はビジネス活動に大きな影響を与える重要事項であり、重視しなければなりません。この結果WLが特定顧客から一般の顧客へ使用層を広げる第一歩になりました。マーケティングで一般的に定義されている“S字カーブ”の成長期に入ることになります。(図—9)

図—9、WLのネーミングと需要のS字カーブ



3、価格（プライシング）と商品認知（プロモーション）

当時、1980年代初めの市場情報のメインは主として故障に対する修理依頼でした。しかし、特筆される情報として、女性特有のニーズが散見できたこと、一度使用された顧客はほとんど再使用するリピータ性が高いということが具体的に把握されたことです。

女性の要求、リピート顧客の存在の明確化は第二次マーケティングの最大ポイントでした。

一度使用頂いたユーザーの商品認知度は確実に上がるものの、一般的にみて“お尻を洗う”習慣はまだ国内に存在せず、WLは“知る人ぞ知る”的な商品でした。こ状況の打破がマーケ

ティングの最大の問題点であり、トイレ=不浄”の一般的なイメージ、“用をたす”、“紙で拭く”という生活習慣に革命を与えることは容易ではありません。商品説明のポイント“拭くより洗浄”をここで初めてTVコマーシャルの考え方が浮かび上がり、研究され提案されました。若手広告宣伝担当者の勇気ある挑戦は、時として最良の結果を生むことがあります。

TVコマーシャルの場合コピーライターとの出会いが大変重要であり商品の技術、背景、歴史、現状そして将来の計画等について議論を重ねました。そのポイントは“お尻を洗う文化”の訴求であり、この商品WLの持つワクワクさせるポテンシャルをユーザーに伝えることです。

WL 第一号のコピー、“お尻だって洗って欲しい”が誕生したわけです。

このコピー及びTVコマ 1982年にテレビコマーシャル、“お尻だって洗って欲しい”として7時より9時のゴールデンアワーにオンエアされました。反応は極めて敏感、かつ強烈であり、全国より反響が殺到しました。それまでエンドユーザーからの情報収集は大変難しく、まして使用者の”Wants”を見つけることは至難の技でした。このTVCMのオンエアにより一気に情報の収集が進みました。

何処で買えるのか、どのように使うのか、取り付けは簡単か等に集約され、何れも“使いたい”を前提とした内容が大部分でありWLが生活の中に入った瞬間でした。

2-3、WL ビジネス

TVCMの結果、ユーザーよりの反応が極めて大きく、出荷も急速に伸びる状況になりました。WLの潜在需要の大きさを実感するとともに、事業として一つの大きな柱にすべく社内体制の整備を行う必要があり、研究開発、製造そしてマーケティングの三位一体での推進体制の構築が不可欠です。

最終ユーザーよりの厳しい商品に対する要求、改善事項、クレームに対する対応が必要となりました。今まで経験しなかった厳しいユーザーからの反応です。

品質の確保、商品の安定、特殊用途への対応等に対し商品の絶対的なレベルを高めていかねばなりません。

また大きな問題に販売店、工事店がこのような機能商品に対し歴史的にもノウハウ的にも弱い体質であり、市場での商品トラブルに不慣れた体質でありませんでした。販売店、工事店はエレクトロニクスを組み込んだ商品に対する技

術的な知識、修理方法、サービスノウハウは有しておらず、また期待すべくもない状況でした。

結果は全てのトラブルに対し商品交換で対応することになり、ビジネスとしての収益を著しく圧迫したのは当然の結果でした。品質管理のレベル、個々の要素技術のレベルを高めることは不可欠です。

同時に完全なクレーム対応、商品交換を行ったことは結果的にユーザーの信用、信頼を得ることにつながり、後のビジネス拡大、サービス事業の展開に良い影響を与えたことは計り知れません。徹底した品質管理は顧客からの信頼、経営基盤の確立に不可欠であり、経営の中核に位置づけられねばならないと思います。品質管理のレベルを%のオーダーよりPPMのオーダーに上げる時期でした。

この追求がまた新しいビジネスを生むことにつながることを認識すべきです。

WL ビジネスを整理すると

(1) 情報の選択及び評価

特許公報をはじめとする各種情報を単に知識として扱うのではなく評価、選別ビジネスへ応用できる”Evidence”としてのレベルまで上げることが必要です。情報源の”Key Person”とのコミュニケーションは不可欠であり単なる知識レベルを価値ある情報に上げるための第一歩としてみなければなりません。

WLのケースを見ると、一つの情報、米国特許(U.S.Pat.324524)をスタートとし約25年間で0より1000億円/年のビジネス規模に成長しています。情報を調べ、評価しテーマとして設定する重要性を見ることが出来るのではないのでしょうか。

(2) 良質のテーマ設定はビジネスの第一条件ですが、実現のための研究開発には多様な技術者の組み合わせがビジネスのスピードアップにつながるのみならず新しいビジネスの誕生につながることを見逃してはなりません。

電子制御技術、品質の確保をベースにWLの小型化に貢献し、後のマーケティングとデザインの組み合わせを加速、ビジネスの幅を大きく変化させることとなります。また従来商品への応用は商品範囲を拡大するのみならず潜在ニーズを掘り起こすことになるわけです。

今回は市場を創出しニーズを把握するというテーマをウォッシュレットという商品を通じてまとめてみました。皆様のお仕事に少しでもお役に立てればと願っております。

第3回 実学サロン

テーマ：「アフリカは魅力ある市場か」

日時：平成24年11月16日(金) 18:30



講師

浅野 昌宏

【略歴】

1969年 芝浦工業大学 電子工学科卒
同年 丸紅飯田（現丸紅）入社
1976年 リビア通信工事事務所所長
1982年 アブダビ支店機械担当マネージャー兼アブダビ通信工事事務所所長
1993年 通信機械部部長代理
1994年 ナイロビ支店長
1998年 (株)グローバルアクセス代表取締役社長
1999年 丸紅通信エンジニアリング(株)代表取締役社長
2002年 (株)JCN 南横浜(旧タウンテレビ南横浜)代表取締役社長
2006年 (株)JCN コアラ(旧コアラテレビ)代表取締役社長
2007年 (株)JCN コアラ葛飾(JCN 葛飾を合併)代表取締役社長
2009年 (株)JCN 関東(旧テプケーブル)常勤監査役
2011年 社団法人・アフリカ協会機関誌編集委員
2012年 一般社団法人アフリカ協会理事・機関誌編集委員(現在)現在、校友会英交会支部支部長

私は商社マンとして、三十数年間アフリカ大陸で仕事をやって来ましたので、今日はアフリカの話をしてします。

さて皆さん、鰐は召上った事ありますか？
鶏のささ身の様でとてもうまいのです。駱駝は食べた事ありますか？ 3日3晩煮込むと、おいしいシチューが出来ます。コウモリはどうですか？ スープにすると羽の中のニカワ質が出てコッテリとしたうまみがあります。シマウマは？ 筋っぽい牛肉の様な感じですが。ダチョウはチョット青臭いですね。これらはアフリカに行けば食べられます。好奇心のある方は、是非どうぞ！

今日のテーマは「アフリカは魅力ある市場か」ですが、本題に入る前にアフリカに関するイメージをえがいて戴きたいと思います。

アフリカをイメージしましょう

① アフリカの広さと多様性

● アフリカ大陸には54の国があります。国連加盟国が193ですから、3割近くを占める大票田です。アフリカ大陸の一番北側にある大きな都市はアルジェリアのアルジェですが、日本の緯度に引張って来ますと仙台のチョット南です。東隣のリビアの首都トリポリは緯度では鹿児島島のチョット北くらいに当たります。たったこれだけで、仙台から鹿児島に南下した事になります。アフリカ大陸の中に、アメリカ、中国、インド、西欧、東欧、そして日本まですっぽり入っています。その大きさを判って戴けると思います。

● この大陸に住む人はアフリカ人と言う事になりますが、アフリカ人と言っても人種的に単一の集団がある訳ではありません。又、アフリカ語と言う単一の言語がある訳ではありません。ここにサハラ砂漠があります。この北側は白人の世界です。白人と言っても日本人より浅黒いアラブの人達です。言語はアラビア語などセム・ハム語系統の言葉です。サハラ砂漠の南に住む人たちはネグロイド人種、いわゆる黒人です。黒人と言えば、肌が黒く髪の毛が縮れ、横広の鼻と厚い唇を持った人間をイメージされるでしょうが、それが実にいろいろなのです。背が高い痩せたマサイ族も、身長140cmのピグミーも同じネグロイドなんです。皮膚の色も墨の様にどんよりした黒いものから、漆の様な黒光りしたもの、茶色、赤、黄色に近いものまであります。言語的には4系統（バンツー諸語、ナイル諸語、アフロ・アジア、コイサン）ですが、言語数では1000近くになります。

● 自然環境も実に多様です。年間10,000mlの雨の降る西アフリカのカメルーン山付近から、年間、数10mlのサハラ砂漠まで、両極端が同居しています。その間には、熱帯雨林、森林地帯、サバンナと言われる草原地帯があります。

② 人口と資源

● 現在のアフリカ大陸の人口は10億人です。

世界人口は70億人ですからアフリカが15%を占めます。ところが、2050年には世界人口が95億人、アフリカは23億人で24%になると推計されています。中国は2030年をピークにインドは2060年をピークに人口が減少に転じますが、アフリカは伸び続け2100年には現在の3倍以上に増加して36億人と計算されています。ここで労働力人口（18-60歳）の多さがアフリカの資源の一つと考えられます。

●次に、アフリカ大陸には石油・ガス・ウランなどのエネルギー資源、金・ダイヤモンド・マンガン・ニッケル・クロムなどの鉱物資源が豊富にあります。近年、中国がアフリカに入れ込んでいる大きな理由は、この資源を確保する事にあります。土地も資源です。今は、アフリカは食料を輸入していますが、広大な開発可能な土地が眠っています。

③ サハラ砂漠の存在

●サハラ砂漠はリビア砂漠と呼ばれる部分も含めて、東西4900km、南北1600kmあります。この巨大な砂漠のベルトがアフリカ大陸を分断しています。この為、南北の交流が制限され、文明の交流が薄かったと言えます。只、人類が生まれてアフリカからユーラシア大陸に拡散して行く時期は、砂漠では無く緑で覆われていました。

④ 植民地・蹂躪した欧州列強

●アフリカはヨーロッパと接触する以前は、さまざまな民族と多彩な王国が興亡していました。1500年頃から始まったヨーロッパの植民地主義に蹂躪されて、深い傷を負わされました。1600年頃から奴隷売買が始まりますが、セネガルからアンゴラまで5000kmに及ぶ海岸沿いに、点々と奴隷の積み出し港ができました。ヨーロッパは自由と平等を求める市民社会でしたが、奴隷を使う事で成り立っていました。この矛盾した現実を解決する為に、アフリカ人は人間ではないと決めて支配や差別を正当化していました。

⑤ 工業・製造業の現状

皆様は技術系ですから工業や製造業の事もお話しすると、大規模な製造業が存在するのは、サハラ砂漠以南では、南アだけです。勿論、鉱山開発や原油生産は、欧米企業が凄いスケールでやっていますが、製造業となるとそれ程のものはありません。例えば、

●製鉄所を持っているのは、北アフリカ諸国

と南アだけです。粗鋼生産量はアフリカ全体で800万トン（神戸製鋼所1社分）。全世界の14兆トンの0.6%です。800万トンの半分は南アの製鉄所です。

●一方、自動車は南アで50万台生産しています。トヨタ、ニッサン、いすゞ、マツダ、三菱、VW、フォード、GM、メルセデス、フィアット、BMWが出ています。トヨタは15万台生産していますし、BMWやメルセデスの生産の内40%は日本向けです。エジプトでは15社が生産しており、ケニア、ガーナなどでもアセンブリーはやっています。

●各国とも金属、木材、食品、繊維・衣料品など、それなりの規模の産業は存在しています。例えば、東アフリカのケニアでは、トタン板などの圧延製品、セメント、タイヤ、ビール、タバコ、日用品の製造、食品加工などがあり近隣の国に輸出しています。

アフリカは魅力ある市場か？

イメージを持って戴いた処で、本題に入りましょう。この様なアフリカ市場に対して、日本企業は如何考えて、何をやっているのでしょうか？ 昨年の秋から今年の初めにかけて、20社にヒアリングを行いました。又、関連して、政府機関のJICA、JETROからも話を聞きました。その結果をお手元に配布した「アフリカは魅力ある市場か」としてまとめました。猶、これは北アフリカの5カ国を除いた、サブサハラ49ヶ国を対象としています。

① 「どんな分野に市場として魅力を感じるのか」との問いに対し、資源及び資源関連のビジネスが圧倒的な多数でした。原油、LNG、ウランなどのエネルギー資源。鉄鉱石、ニッケル、アルミ、プラチナ、バナジウム、フェロクロムなどの鉱物資源。チップなどの木材資源。次に来るのは、石油化学、製鉄、肥料、セメントなどのプラントと、発電・送变电、上下水道、海



水淡水化などインフラです。トレードはどうでしょう。鉱山機械、自動車、化学原料、合成樹脂、セメント原料、飼料、タイヤなどありますが、消費財に対する興味は大きくありません。実際に、日本通運に聞いた話では、「日本からアフリカ向けの荷動きは、資源関連以外は自動車・自動車部品と一部物資に限られており、他にあってアジア諸国からの出荷となっている」とのことでした。

② 「魅力ある国・地域」として考えられるのは、南アとその周辺国という答えが、圧倒的です。矢張り、資源への投資と取引が中心だからです。その後が続くのは、東アフリカのケニア・タンザニア・エチオピアなど英語圏でODA（政府開発援助）でも実績の大きい国です。

③ 「何が問題で、何が障害か」と言う事ですが、
＜市場のサイズと地域連携＞経済はスケールです。アフリカは国ごとの市場を見ればサイズが小さく、量が捌けません。又、アジアの様に横が繋がっていない為に市場の深さありません。それは輸送網と制度が未整備な為で、その結果、流通コストが価格に大きく跳ね返っています。

＜インフラ未整備＞産業のベースとなる水・電気と、流通を促す為に必要な道路・鉄道・港湾施設が非常に不足しています。又、都市人口の増加に対してインフラが追いついておらず、公共交通機関が無い事も都市の混雑に拍車をかけて発展阻害要因となっています。

＜労働生産性の低さ＞時間当たりの生産性が低い事に加え、アジアに比べて賃金水準が高い事が事業投資をためらう要因の一つとなっています。若年層人口は厚いが、労働力の質に問題があり、実質的に労働市場に人がいないと言えます。又、事業を根付かせる為に必要な中間管理層がない事も問題です。

＜教育レベルと民度の低さ＞進出している企業は何処もそれなりに教育や訓練に力をいれています。しかし「意欲が無い、根気が無い、教育してもなかなか変わらない」と言う悩みを抱えています。アジアとの比較では、植民地時代に教育が施されなかったのが大きい事、それから、国民としての意識より部族への求心力の方が強い事が、何かと障害となっています。

＜行政制度の不備＞一般的に社会の基本的なシステムが出来上がっていません。例えば、税制・輸出入規制・車両法規などが曖昧で、グレーゾーンが多い事が仕事をやり難くしていま

す。種々の法制度の整備と、その執行体制の改善が必要です。

＜腐敗・汚職＞コンプライアンスに係る問題であり、その為に、社内的に優先度が低くなってしまいます。

＜国のガバナンス＞ガバナンスの低さや紛争のリスクが大きいというイメージがあります。最近では良くなって来ているものの、未だ不安なところが多いと感じている様です。

＜その他＞他には、地理的に遠いとか、社内の認識不足とか、風土病との不安があると言っています。

④ 日本政府としては、何をやって来たのでしょうか？

●政府はアジア諸国でやったと同じ様にODAをやってきました。しかし、日本からの援助である事が現地の人達に伝わっていないとか、もっとジャパン・カラーを出してアピールすべきだとの声は依然としてあります。それは欧米の援助が「ものを恵んでやる援助」が多いのに対し、例えば日本は食糧増産の技術指導を積み重ねて自給を促すことなどにウエイトをおいてきました。今、アフリカは食料の輸入国です。元々は、自分達で自足していたのですが、欧州列強の植民地政策で、コーヒーのプランテーションなどの様にモノカルチャーの農業にしてしまったのです。

●日本の援助は、その国が自立して行く為に、手助けするのが本質であると考えています。これはアジアでは円借款や無償資金協力で上手く行きました。アフリカでは、外務省の傘下のJICA（独立法人国際協力機構）が青年海外協力隊や技術援助、無償資金協力などを担当しています。成功している例では、ケニアのジョモケニアアッタ農工大の例があります。資機材を贈り、先生を送り、学生達の教育にあたって来ました。今ではその卒業生達が、ナイロビ空港では管制官として管制塔を取り仕切り、道路や建物の建設現場では現場監督として中心的な役割を果たしています。

ここまですとまとめると、＜日本企業にとってのサブサハラは資源・インフラの市場であり、消費市場としての地合には未だっていない＞状況だという事が判りました。しかし同時に確かな事は、どの企業も＜アフリカ大陸は中長期的には取り組まねばならぬ市場＞として理解しています。即ち、資源を梃子に購買力が増せばトレードも注目されるようになり、人口の伸び

が消費を増大させ、経済を拡大させると認識しているからです。

アフリカと日本の関わり

最近、明治大学教授の齋藤孝氏が「日本人は、なぜ世界一押しが弱いのか？」という本を出しました。討論をすれば外国人にコテンパンにやられ、背は低いし、体力は弱いし、酒に弱い事では世界的に群を抜いている。アフリカ大陸で人類が誕生してから、ユーラシア大陸にどんどん拡散して行きました。そこでは幾多の争いが起こり、強いのはその地に住みつき、弱いのはドンドン押し出されて端へ端へと流れて行きます。最後に一番弱いのが行き着いた所が日本列島だった。日本人は、押しが弱いのは当然だと言うのです。思わず、頷いてします。

アフリカと日本はそんな意味では、一番遠いのかも知れません。欧州諸国にとって、アフリカは自分の裏庭でした。一方、日本が本格的に関わる様になったのは、1950年代後半にアフリカが独立する様になってからです。

●1957年ガーナの独立に始まって、60年代に34ヶ国が、70年代以降12ヶ国が独立しました。ただ、北アフリカ諸国とエチオピア、南アフリカは別です。日本企業が活発にアフリカ市場に取り組み始めたのは、この60年代です。ちなみに、私が現在関係している社団法人アフリカ協会は、1960年に設立されました。協会としては、1970年の大阪万博でアフリカの手伝いをしたり、1974年にはナイロビに日本人留学生の為のスワヒリ語学院を作っています。この頃は商社が先頭を切って走り、大変活発な時期でした。80年代90年代と日本政府のODAも年々増加し、商社やメーカーは案件の仕込みの為に飛び回っていました。

●ところが、日本経済のバブルが弾け、「失われた十年と言われた時期」を過ぎても、デフレ経済の出口が見えず、企業は選択と集中に走りました。その結果、アフリカから一挙に撤退しました。2000年を過ぎると、メーカーは殆んど撤退し、商社の駐在員もピーク時の3割になってしまいました。ある大手商社は、サハラ以南ではヨハネスブルグを除いて全ての支店・出張所を閉鎖しました。

●この間に中国は、勢力を拡張し、資源確保の為に大量の資金と労働力を投入してアフリカ攻略を行いました。例えば、道路や橋の援助には、労働者として囚人まで投入して、ドンドンインフラ建設を進める一方、それとバスターで資源鉱区を確保して行きました。

●しかし、日本も数年前から再びアフリカの資源に目を向ける様になりました。世界が新しい資源の供給先を必要としたからです。

こんな訳で、日本企業としてはサブサハラに10年間のブランクが出来る結果となりました。

アフリカで、今、起こっている事

① 新しい風が吹き始めている

今、アフリカでは、これまでにない新しい風が吹き始めています。21世紀に入りグローバル化が加速的に進み、これまでになかった人・金・情報の流れが生まれアフリカを動かしています。10億人の巨大市場に期待を寄せる世界のマネーは伝統的な生活を営んできたアフリカの風景をも変えつつあります。例えば、

●今やマサイ族のほとんどの人が携帯を駆使して生活を営む様になっています。マサイ族はケニアの南部に住んでいる先住民です。30万人程度しかいませんが、皆さんはテレビの番組で、槍をもって垂直飛びをやっている背の高い黒人を見た事があると思いますが、あれです。あの人達には携帯が必需品となっているのです。

●資源の現場でも欧米の資源メジャーと地元の生産者の力関係が変わり始めています。金の採鉱現場では、インターネットで世界の価格をチェックして最も高い所に売る様になっているそうです。

●南部の国ボツワナでは、ダイヤモンドを産します。以前は、巨大企業デビアスに牛耳られていましたが、今では、ネット情報を武器にして、政府が主導権を持って交渉を進められる様になりました。

知恵を使って人・金・情報を動かせば、グローバル化を順風に変えられるのです。今、確実に新しい胎動が始まっています。

② 中国の動き

●一方、中国の進出は強烈です。例えば、エチオピアで全土のネットワークを携帯電話で整備しました。中国のZTE 1社で、2006年からの5-6年で、日本の3倍の国土面積全部をやりました。これには100億ドル(約8000億円)かかっていますが、この金を、中国国家開発銀行がポンと貸したそうです。

●これは通信分野だけでなく、あらゆる業種に及びます。その結果、現在、43ヶ国、260プロジェクト、400億ドルが積み込まれています。最近のこの中国のやり方に、批判も多くなっています。地元の経済には全くと言っていいほど貢献していないのです。人や資材をすべて自前

でやり、現地には一銭の金も落さないそうです。日本なら建設現場の人間は、全部現地で雇うのですが、中国から送り込まれた労働者が劣悪な環境で、インスタントラーメンで働かされていると聞きます。

③ BOP ビジネス

BOPとは、Base of the Pyramid 即ち、収入別の階層をピラミッドに見立てた時の基盤の部分の事です。年間所得 3000 ドル (24 万円) 以下で暮らす人を言います。従来は、ビジネスの相手として見られる事の無かった人達です。ここにスポットを当てて、企業利益と社会利益を同時に実現するものです。例を上げてお話致します。

●味の素が数十年前からやっているビジネスモデルがあります。BOPの先駆者として、インドネシアやナイジェリアで成功しています。何処の国でも、お母さんは、家族に美味しいものを食べさせたいと考えますが、味の素一ピンは高くて買えません。ぜいたく品です。そこで買いやすい様に、一回分 3 g を小口包装にしてキヨスクで売ります。

●ヤクルトはフィリピンで、ヤクルトレディ 2,400 人を使って宅配をしています。進出して三十数年、毎日 150 万本飲まれており、女性への雇用効果と貧しい人達への健康効果で大きな成果を上げています。

●ケニアでは M-PESA というサービスがあります。携帯電話のショートメール機能を利用した送金サービスです。2007 年にサファリコムと言う会社が始めました。ケニアでは一般の人は、銀行口座もクレジットカードも持っていません。また、田舎に住んでいる人は銀行も遠いし、交通費がかかります。M-PESA のサービスを使えば、送金や受け取りが簡単に安い手数料で出来ます。今ではこの為の取次店が全土に 11,000 か所あり、個人だけでなく中小企業など事業者間での送金などにも使われるそうで、未整備な銀行インフラを補完する機能を果たしています。人口 4000 万人の国で、1300 万人が使っています。

アフリカを魅力ある市場に！

ここまで、アフリカの地勢、歴史、現状と日本企業の状況を見て来ました。皆様の感想は如何でしょうか。ずうっと遠い国の話だとか、リスクのあるアフリカをやるより近場のアジアを固める方が先だとかの感想をお持ちかと思えます。それも、その通りです。

只、一つ言える事は、<中長期的には、取組

まねばならない市場だ>と言う事です。<資源が梃子になって、購買力が増せば、トレードも増え、人口の伸びが消費を増大させ、そして経済を拡大させる>と言う事です。既に、それが判っている企業はどの様に問題を解決し、市場へのアプローチはどの様にやっているのかを調べて見ました。

① 市場を組織化する事

●企業が取り組むに当たって躊躇する一番大きな点は、市場のサイズの問題でした。これを解決する為に、市場をアグリゲート(集約)する。分散している市場を一つの塊りにまとめる上げる事です。

●この為に日本政府は JICA を通じて、国と国・市場と市場を繋ぐ国際回廊を整備しています。道路・橋の整備、国境では通関手続きをスムーズにさせるプロジェクトが進行中です。普通、トラックで運ばれる荷物は国境の税関で輸出手続きをします。そして、数百メートル走って、向こうの国の税関で輸入手続きをします。国境の税関と言うのは、幹線道路にしかありませんから、混雑で押し合いへしあいするのが通常です。ここを通るのに 3 - 5 時間はかかります。これを両国の手続きをワンストップで出来る様にする事と、効率を高める職員研修を行っているのです。現在 14ヶ所で進められています。

●しかし、これは国や国際機関がやっている事で、実現には時間が掛ります。自前で市場を組織化する方法は無いのでしょうか？自家用の囲い込みをする事は出来ないのでしょうか？その方法はあります。自社のフィールドだけを組織化するのは、それが出来れば他に比して圧倒的に有利に進められます。又、インフラの未整備が大きな問題です。解決策は無いのでしょうか？その方法はあります。インフラが未整備なら、商品の方をカスタマイズするのです。カスタマイズとは、「既存の商品などに手を加えて、好みのものに作り変えること」を言います。

●これをやって成功している企業があります。小売業の例では、南アで創業しアフリカ最大の食品小売業者となっているショップライトグループ、南部アフリカに子供服専門店を展開する PEP、ケニアから始まり東アフリカに展開しているスーパーマーケットのナクマツトなどです。流通の例では、グローバル企業のユニリーバ、コカコーラ、ギネス、南アのビール業者の SAB があります。

●住友化学の例もあります。これは、インフラ未整備と労働生産性の低さを克服する工夫をして、成功しているオリセツトネット事業です。

オリセットネットとは、マラリア防止用の蚊帳です。原料に練り込まれた防虫剤が糸の表面に徐々に染み出し5年以上に亘り効果が持続する優れたものです。住友化学はこれをタンザニアで工場生産し、WHOやUNICEFと契約して納入しています。蚊帳の小売店舗への納入にあたっては、自前で180台のトラックを所有し、GPS機能付きケイタイを運転手と小売店主に持たせて、所在確認・貨物の積み下ろし、小売店の販売・在庫確認などをセンターで一括管理できるシステムを構築しています。

② グローバル企業のアプローチ

これがグローバル企業となると考え方が違ってきます。

●グローバル企業は、世界戦略の中でシェア争いをしているので、人口の多い市場を如何に取りこんでいくかが、勝負の分かれ目となります。アフリカ大陸といえども、いやアフリカ大陸だからこそ、今、必要なシェアを確保しなければと考えるのです。アップルのiPhone対グーグルの 안드로이드の争いがそうです。携帯のノキア対サムスンも猛烈なシェア争いをしています。アフリカは将来の市場ではなく、目先のシェアを押さえる為の獲得競争の場となっています。自動車市場も同じで、日本企業は既に南アで現地生産をしてアフリカでのシェアを広げつつあります。コカコーラ、ユニリーバなども同じです。

③ 官民連携

独立以来、アフリカに投入される資金は圧倒的に欧米と日本からの援助資金でした。しかし、2000年に入って潮目が変わりました。民間の投資資金の方がどんどん増えて来たのです。そして2006年には民間の投資資金の方が援助資金を上回る様になりました。言い換えれば、援助のアフリカから投資のアフリカに変わって来ました。この様な背景があって、援助の方もハード主体から、ソフト主体に変わって来ています。

●官民連携の形態も工夫や検討が重ねられて来ています。その実例としては三菱商事のモザンビークのアルミ製錬事業があります。これは開発プロジェクトの周辺事業に公的支援をするもので、現場近くの村落のために三菱商事が診療所や学校を建設しますが、看護師や先生をJICAの専門家として派遣するものです。

●又、JICAでは「BOPビジネス連携促進」事業を2010年から始めており、シーズの発掘効果がある様です。JETROと共催で始めた中小

企業向けの「アフリカ・ビジネス・キャラバン」も企業の関心度は高いとの事です。

●2013年6月には横浜でTICAD-Vが開催されます。TICADとは日本が提唱して始めたアフリカ開発会議(Tokyo International Conference on African Development)の事です。その中では最近の企業の投資活動の活発化を受けて、企業投資とのマッチングを図る事にウエイトを置こうとしている様です。

④ チャレンジ

今日のテーマ「日本企業の現状と課題」としてのまとめに入ります。これから企業はそれぞれに、アフリカに向き合っていく事になると思います。

●当面は資源開発の市場として、開発投資と関連取引を中核にしたビジネスが進められて行きます。これは国策にも沿ったものとして政府の支援もなされます。

●次に産業投資の市場としては、いろいろと問題はありますが、JICAとの連携や、日本企業の現場力を移植する工夫をする事で、欧米や中国・インドと違うローカリゼーションの効果を上げる事が出来ると考えられます。

●消費市場としては、今のところ興味を持っていない企業が大半ですが、市場拡大のスピードを注視しておく必要があります。一般に考えられるより早いかもしれません。

最後に、アフリカに取り組む際の成功の要件は何なのかを纏めますと、

- ① 対象となる顧客層を何処に置くか決め
- ② 自社のフィールドでの市場の組織化を図り
- ③ インフラの弱点を克服する工夫をし
- ④ 進出のタイミングを決めたら徹底して継続してやる

即ち、アフリカにはチャレンジャーとして立ち向かう事が必要です。リスクを取れるところはチャレンジすれば良いし、リスクを取りたくないところはやらない方がよい。当たり前の結論ですが、アフリカに臨むにはメリハリを利かせる事が重要です。

支 部 活 動 紹 介

宮城支部



支部長
秋山 輝正

土木工学科
昭和37年 卒業

山形支部



支部長
川越 進

土木工学科
昭和46年 卒業

在籍 182名 (平成25年3月末現在)
平成24年度校友会宮城支部の活動報告

- ・校友会全国総会出席 6月
- ・校友会宮城支部総会開催 6月
- ・東北父母懇談会出席 8月
- ・東北支部懇親会開催 10月
- ・支部新春交流会開催 2月
- ・支部幹事会 5・12月
- ・支部親睦ゴルフ大会開催 4・8・10月

平成25年度校友会宮城支部の活動計画

- ・定例行事
- ・支部だより発行 (秋期)
- ・支部親睦ゴルフ大会開催
- ・若人会設立

宮城支部は、40年近い活動実績があり、多くの卒業生が公私にわたり懇親を深めております。昨年は、会員増強に力を入れ、各方面のお力添えで、10数名の若い卒業生を、新会員としてお迎えすることができました。また、今年は若い会員が集える部会を設立し、さらに新会員の入会を促したいと思っております。

また、昨年は震災後の東北各県支部との交流を深めるため、東北支部懇親会(下写真)を企画・開催致しました。紅葉の行楽シーズンに、会津若松高杖セミナーハウスに於いて、福島・山形・岩手・宮城支部が地元の銘酒を持ち寄り、大変楽しい時間を過ごすことができました。今後もこのような交流を続け、東北全体でも、校友会を盛り上げていく予定です。

宮城支部は、懇親会やゴルフ大会などで、大先輩から若い卒業生まで集える楽しい支部です。宮城県在住等の卒業生で支部登録されていない皆様、是非ご連絡ください。ご連絡お待ちしております。

連絡先(支部事務局:佐藤靖記 日元年機械II科卒 090-3752-1237まで)



東北支部懇親会集合写真(大学高杖セミナーハウスに於いて)

山形支部の昨年度の活動ですが、数年来の目標であった秋季行事(置賜地区懇談会)を開催致しました。今後も引き続き支部活性化の為、新規事業に取り組みたいと思います。

今年度の支部総会は15名の参加で、年会費も昨年度より多くの会員の皆様から納入頂きました。徐々にですが支部の運営も広がりつつあると思います。

山形支部は今後も支部発展の為役員一丸となって頑張っていきたいと思います。

平成25年度総会は、
下記の日時で開催予定です。

記

期 日 平成26年2月22日(土)

場 所 料亭 の>村
山形市七日町4-1-6
電話 023-641-0515

時 間 PM2:00～総会(予定)

平成24年度総会出席者



秋田支部



支部長
渡邊 淳悦

建築学科
昭和51年 卒業

秋田支部は、1983年に初代支部長だった故佐藤恒吉氏（昭和12年土木卒）を中心に組織され、2代目高橋千代士氏（昭和24機械卒）、3代目故小田内富雄氏（昭和40年土木卒）、4代目松田悦朗氏（昭和47年建築卒）、5代目の私こと渡邊淳悦（昭和51年建築卒）と受け継がれています。

現在、秋田県在住の芝浦工業大学の卒業生は名簿上では85名前後を確認していますが、総会案内等で連絡の取れる方々は50名前後、総会へはその内の20名前後の出席を得てこの会を運営しています。

秋田支部は会員相互の親睦を図ると共に芝浦工業大学の発展に寄与することを目的としております。その活動として

1. 総会の開催
2. ゴルフコンペの開催
3. 新規支部会員の開拓
4. 大学関連行事等への助成
5. 校友会本部との連絡強化

等々の事業計画で行なっています。

平成24年度の総会は平成24年7月6日に開催いたしました。学校から総務部校友課担当部長の角野和明様、校友会から組織委員会参与の野溝忠男様のご出席をいただきまして盛会裡に開催されました。

今年度も7月5日に総会を開催して支部の活動を始めますが、今年も多くの方に呼び掛け情報の交換をしながら楽しい会を運営していきたいと思っております。



栃木支部



支部長
宇塚 典夫

土木工学科
昭和37年 卒業

全国各地で、ご活躍の校友の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。栃木支部は平成18年から本格的な活動を再開し、今年で8年目を迎えることができました。この間、校友会本部や会員の皆様など多くの方にご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

平成24年度の「栃木支部総会」は、昨年11月10日（土）に大学より菅沢茂理事、校友会本部より神野兼次副会長のお二人のご出席を賜り、会員31名の参加のもと、支部旗を囲んで開催することが出来ました。

総会は3部構成で、第1部が総会、第2部が研修会、第3部が懇親会とし、会員相互の親睦を深め、情報交換の場としました。第2部の研修会では、「豊洲キャンパス建設記録」ビデオを視聴し、豊洲キャンパスの事業概要と工事の特徴を知ることができました。また、菅沢理事と神野副会長から、大学と校友会の現状等の報告をいただき、大学及び校友会の新鮮な情報に触れることができ、有意義な研修となりました。

第3部の懇親会では、全員で校歌を合唱し、芝浦工業大学ならびに校友会本部と栃木支部の発展と参加者のご健勝を祈念し、万歳三唱にて楽しい総会を閉めることが出来ました。

最後に、今後とも、栃木支部の活性化を目指すとともに、芝浦工業大学の発展に寄与し、校友会の輪を更に広げていく所存でありますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

平成25年度支部総会は、平成25年11月9日（土）で予定しております。会員の皆様のご参加をお待ちしております。



平成24年度栃木支部総会「ホテルニューイタヤ」

神奈川支部



事務局長
長井 義明

建築学科
昭和47年 卒業

神奈川支部の一年間の活動報告

平成24年度の支部総会は、10月13日（土）横浜中華街「ローズホテル横浜」にて、16時より開催、支部総会を行い、次に、講演を、宇宙航空研究開発機構・理事長谷川義幸（芝浦工業大学1976年大学院修士課程電気工学専攻修了）「JAXA最新宇宙活動とはやぶさⅡ」と題し、お話しを戴きました。次に、ギター弾き語りを音一平氏に演奏を戴きました。

懇親会に入り、学校側から早乙女常務理事・校友会から谷川監査役両氏から挨拶があり、箱根駅伝の予選会を、一週間後に迎える、味澤監督に抱負を伺い、頑張るように、激励を致しました。又、鳥人間コンテストの報告を受け、支部として、両者に寄付金を渡しました。懇親会出席者は、50名で、大盛況うち終わりました。

今年も、25年度支部総会を、10月12日（土）16:00から横浜の中華街「ローズホテル横浜」で開催いたします。「芝浦だより」に掲載しておりますので、是非、支部の皆様にご参加戴きますようよろしくお願い致します。

又、支部のレクリエーションを8月11日（日）AM9:00～13:00 茅ヶ崎市のサザンビーチ内で、地引網を予定しております。支部の皆様、是非、ご家族と共に御参加下さい。地引網が終わったら、隣には、サザンビーチで海水浴場で、家族と一緒に楽しむことも出来ます。これからも、支部の皆様、楽しめる校友会にして行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

長野支部

支部長
北村 武彦

建築学科
昭和45年 卒業

県の地勢から考え出した「地区の会」

長野県は、都道府県の中で4番目に広い領域を持ち、南北に細長い。山岳が取り囲み谷筋で地形が分断される地勢である。長野県は信州ともいわれ、古くから四信といって、北信、東信、中信、南信の4



地域に分けられ、生活圏ができあがっている。そして東京から新幹線が来た信の長野市に至るもの、概していえば公共交通機関は貧しい。この状況で校友会支部総会を長野市で開催となれば、南信の方は1日がかりの日程行動となる。

この様な状況の中、校友会への出席をもっと容易にし、親密度を増し、会員数をまず増やす組織体はないものかと考えられたのが「地区の会」である。長野支

部の下に、現在は長野会（長野市周辺）、諏訪会（諏訪市周辺）、中信会（松本市周辺）があり、残すは上田市方面（東信）の会の創設である。

地区の会のそれぞれが総会を開催し、それらの総会に他地区の代表が参加しあうことになっている。これによる親睦と連携がいつか県全域を大きくまとめる組織体になるであろうと思っている。会員が多いことには喜ばしいことであるが、100人ほどの人が集まっても会話が全員とできるはずがなく、小ぢんまりとした会は親密度が増すことから、ひとつのあり方であると思う。また今後他地区の会に出席する代表者を順番とすることにより、新たな校友を少しずつ広めて、連携、親交を深めてゆく方法が考えられる。ただし役職の新陳代謝、中核的世代の交代を考慮しなければならない。

地区の会が創設される前は、長野市近在の校友のみによる長野支部であって、大学校友会と連携をとっていた。諏訪会が生み出すにあたり、ある行政機関によるあずかり知らぬ策謀が背部で蠢き、大学及び大学校友会とすったもんだがあったことは、今は思い出である。

静岡県同窓会支部

http://www.geocities.jp/shibaura_shizuoka



支部長
松村 和彦

電気工学科
昭和 36 年 卒業

平成 24 年度第 35 回支部総会を 7 月 7 日（土）に開催し、来賓 8 名を含め 45 名もの会員が集まりました。

I 部の支部総会は前年度の事業・会計・監査報告、新年度の事業計画の審議をし、拍手による可決を受けました。

II 部の懇親会は、神奈川の安藤支部長、愛知の平塚支部長の各来賓から挨拶を頂きました。そして例年にも増してビンゴで盛り上がりました。

平成 24 年 9 月 29 日（土）30 日（日）には静岡市葵区の静岡市立高等学校に於いて、「少年少女ロボットセミナー」を開催し、小中学生 40 名が参加。長澤純人准教授は「ロボットとは何か」と題し講演し、ロボットが動くメカニズムや自身の研究について紹介。有線式リモコン操縦の 6 足歩行ロボットの組立て、デザインコンテストやロボット同士を土俵上で戦わせるバトル大会が行われ、最後に表彰式を行い、無事に終了しました。



静岡県同窓会支部総会（H 24. 7. 7 クーポール会館）



静岡市長と一緒に記念撮影表彰式
少年少女ロボットセミナー in 静岡 2011
（H 24. 9. 29 ～ 30）於：静岡市立高等学校

石川支部



支部長
小杉 俊明

建築学科
昭和43年 卒業

芝浦の学生であった当事（昭和40年代）は、国鉄の特急で11時間要していた金沢～東京間が、2年後の平成27年3月春には、北陸新幹線が開通の運びとなり、2時間28分となる予定です。

いま、当地では、県、各市町村、経済団体、大学等、総力を挙げて、来県者の増加と、おいでた方に満足していただける為の、各種施策を模索中でございます。

すでにこの4月からは、より手軽に県内各地に移動できる様、能登有料道路や加賀産業道路の有料橋を無料化とし、さらに金沢駅発の高速バス路線を増設、増便し、従来の能登、加賀での温泉めぐりの他、五箇山コース等も設け、利便性の向上を図っております。

さらに、里山体験ツアー、農家民宿ツアー等のグリーンツーリズムも充実される計画となっております。新幹線工事は路線等の土木工事はすでに完成し、現在レールの敷設もほぼ終了間近との事で、新金沢駅舎の完成が待たれるばかりとなっております。

他にも金沢市内では、中央資本によるマンション、ホテルなどの建設工事に加え、旧石川県庁跡地整備、金沢城整備、県立歴史博物館改修等の大型公共工事も発注され、全て開通までに完成と、建設工事が活況を呈しております。

これらの施工者として、街中で最も目にするのが豊蔵世紀氏(S41土木卒)率いる豊蔵組です。地方での建設業が苦戦している中、ご活躍されている先輩のご様子を垣間見られるのは大変誇らしい事と感じている昨今です。

開通の折には、これまでの観光に加え、海釣り、川釣り、夏には白山登山、冬にはスキーと、自然を楽しむ石川県がお手軽となりますので、是非、ごゆっくりとおいでいただき、美味しい日本海の幸を召し上がって頂きます様、よろしくお願い申し上げます。

関西支部



副支部長
松田 賢一郎

工業化学科
昭和51年 卒業

関西支部の活動内容は、水口支部長を中心に毎年11月に支部総会の開催とその翌日の懇親ゴルフコンペの開催、また2年に一度大阪で開催される後援会主催の父母懇談会に出席し、就職活動等について父母へアドバイスを支部幹事等がしています。関西在住の卒業生が少ない為、毎年の支部総会を成功させるべく、数回の幹事会を開催しながら参加者が増えるよう動員活動を行っております。毎年の支部総会は、大学・校友会本部から来賓を迎え、約40名程度で開催しております。その内10名程度は社会人1・2年生となっておりますので、22歳～80歳代の幅広い年齢層に参加を頂いていますが、建築関係者が多く転勤異動で会員総数が増えない悩みがあります。また、支部総会の翌日はゴルフコンペを開催し五十嵐理事長・鈴木校友会会長を囲んで会員の親睦を図っております。

在阪の卒業生の方々には是非お気軽に関西支部総会・ゴルフコンペに御参加頂けます様にご心よりお待ちしております。（記：松田副支部長）

平成23年度支部役員

支部長	水口 譲	昭和48年 建工
副支部長	松田賢一郎	昭和51年 工化
副支部長	坂東 量幸	昭和46年 建築
幹事	土屋 賢一	昭和47年 建工
幹事	荒木 敏之	昭和37年 工化
幹事	安田 弘毅	昭和41年 金属
幹事	松岡 英治	昭和54年 建築
幹事	桐谷 広二	昭和62年 建築
会計	齋藤 隆	昭和49年 電工



愛知県支部



支部長

平塚 秀雄

電気工学科

昭和40年 卒業

愛知県支部はS52年に県内在住校友の有志によって設立され、初代支部長は飯塚武一氏(S6年土木卒)にお願いして第1回支部総会を開催いたしました。

以後、毎年初夏に総会を開催し今年第37回総会を6月22日に予定しており、皆様の参加をお待ちしております。当支部の特徴としては、各種活動において校友会と後援会が協力して対応している点があげられると思います。

又、ここ数年の目標として役員が力をあわせ注力しているアイテムとしては「支部活動の魅力アップを図ろう…」というテーマがあります。更に多くの校友が各種行事に参加頂ける様に、新風を吹き込みたい…。情報化社会のツール等も活用して試行中です。

H24年度支部活動の一例を下記致します。いずれも後援会の方々と共に進めることができました。

1、愛知支部芝浦会ゴルフコンペ

- ・第36回(6/16日、日本ラインゴルフ倶楽部、14名参加・内、後援会員3名)



- ・第37回(11/17、恵那峡カントリークラブ、16名参加・内、後援会員2名)

2、第36回支部総会(6/22)

名古屋市栄の中日パレスにて開催。校友会本部、大学、静岡・岐阜支部、後援会東海支部からの来賓6名含め27名で総会を実施しました。

その後の懇親会では、例年通りワイワイムードで楽しく懇親を図る事ができました。

3、少年少女ロボットセミナー(8/4・5日)

今回は参加者60名で過去最高の人数となり、会場いっぱいのムンムンムードとなりました。1日目のメカ組立は子供により早・遅の差がありましたが、2日目には完成しデザイン選評が行われ、午後のバトル大会では例年通り大変な熱気となりました。



4、第4回合同新年会(H25年2/2日)

名古屋ガーデンパレスにて校友会愛知支部(11名)・後援会東海支部(8名)の役員計19名が参加して開催いたしました。各役員の自己紹介・自由スピーチにて親睦を深め、今後の活動スケジュール等を相互に確認致しました。



愛媛支部

一色 貴志

電子工学科
平成 11 年 卒業

2000年4月7日に有志にて設立総会を開催し、今年で13年目を迎えました。現在、事務局を松山市に置き、東予、中予、南予担当の理事が各地区の校友会活動を行っています。

毎年、5月の第3土曜日に支部総会を開催し、会員相互の親睦を深めています。主な行事としては、道後温泉において、夏は湯上りビアガーデン、冬は湯上り忘年会を行い、2012年度の支部総会からは親善ゴルフも同時開催し、今年も支部総会と同時に第2回を開催する予定です。年末には、有志を募ってゴルフを通して親睦を深めました。

また、四国の4支部で総会、親睦ゴルフなどを通じて相互の交流を深めて、四国全体で校友会を盛り上げています。

仕事の付き合いだけではなく、同じ学校の卒業生として、諸先輩方と接すると不思議と親近感が沸いてきます。在学時の思い出なんかは、時代は違っても同じ時間を共にすごしたかのように語り合えます。先輩方も、先輩後輩と言う絆があるからこそ、かわいがっていただいている気がします。そこが、校友会のよい所だと感じています。

近年では、若い世代の参加も増え、同窓の仲間が集い、活発な活動で「元気もりもり」となることを目指しています。

大分支部



支部長
三浦 弘志

土木工学科
昭和 41 年 卒業

大分支部の24年度総会は10月13日（土）市内のホテル・ザーズで開催いたしました。

御来賓として大学からシステム理工学部長三浦昌生教授（大分市出身）、校友会より内田武男幹事、福岡支部より中村宏相談役（九州・沖縄ブロック評議員）、上田文雄顧問、宮崎支部より尾形彰史支部長と多数のご臨席を頂きました。ここに改めて衷心より御礼を申し上げます。

三浦教授のご挨拶で大宮キャンパスの各学部 of 著しい発展と恵まれた環境にあるキャンパスの現状をお聞きし、又、他の総合大学にも引けを取らない芝浦、大宮、豊洲、三地区のキャンパスの目覚ましい発展に出席者一同大きな感銘を受けました。

地方支部の今後の課題は卒業生が県外に就職し故郷を去って行く現状に年々支部の衰退を感じております。当支部も19年～24年に就職帰省した卒業生は僅か9名で県内一円に広がっております。尚且つ現在の卒業生の同窓会離れ、無関心さも大きな要因の一つですが、これらは全支部共通の課題であると思います。幹事会で常に解決策を議題として支部健在に寄与する所存です。

県都大分市は昨年市を二分していたJR日豊線の高架が完成しそれに伴う駅周辺の再開発事業で47万都市が大きく飛躍する時代を向かえました。また全天候型ドームを持つサッカーJ-1の「大分トリニータ」の活躍とそれに伴う経済効果に県民が大きな期待を寄せております。我々支部の同窓生一同もサッカーの応援共々母校の箱根駅伝出場に九州の地より熱い声援をお送りいたします。



佐賀県支部



副支部長

山田 清人

電気工学科

昭和48年 卒業

支部設立以来29回目を迎え昨年10月27日(土)に芝浦工業大学校友会佐賀支部総会を、「グランドはがくれ」にて開催しました。翌日は少人数の参加でしたが親睦ゴルフ大会(大和不動産カントリー倶楽部)をもちました。来賓として大学からは横田先生、校友会からは金井監査役、福岡支部長中村氏をお迎えしました。横田先生からは丁寧に「2027年創立100周年へ向けて」理工系私学のトップブランドを目指して五十嵐理事長以下一丸となって早慶芝浦となるよう頑張っておられるとお話がありました。金井氏からは校友会の発展をどのように取り組んでいくかの解決策や箱根駅伝予選会の結果をスポーツ紙で紹介がありました。

昨年度は、支部会員100余名弱の案内に対して、出欠の返信用葉書が届いたのは39通、総会参加者は15名と少人数で残念な結果となり出席率15.3%です。

校友会の皆様は多かれ少なかれ大宮、芝浦あるいは豊洲に足を運んでおられることは間違いありません。現役のころは卒業年度、学科は違うけど、仕事にビジネスにまた情報交換など親睦のつながりを拡大し、現役を一步退き年齢を重ねるに従い、学生時代の足跡を大事にし校友の輪を一層強くしていかなければならないと考えます。

今年度の支部総会には、役員、事務局の苦勞をかながみ参加ご協力を節にお願い致します。

ともかく時代の変遷が激しいなか、それらに対応していくためにも校友会の輪を大切にしてください。



鹿児島県支部



支部長

濱田 英俊

電気工学科

昭和43年 卒業

鹿児島支部は現在約40名の会員で運営され毎年、会員及び幹事の皆様の努力により、微増ではありますが新入会員が増えています。

しかし残念な事に若い方の参加が思わしくなく又、鹿児島から大学に入学される方も少なくなっており、帰省される方も少なく若干高齢化してきている様な状態であります。

平成24年度は、7月に全体総会及び2月に役員会等を開催し、総会には大学当局より、野口次長様と校友会本部より金井様、宮崎支部の尾形支部長様が参加頂き盛大に開催する事が出来ました。

全体総会は、全国総会、支部長会議が終了して1ヶ月以内に行ない学校の現状報告等の説明があり、会員全員に周知し芝浦工大卒業生として、学校を身近に感じる事により芝鹿会を盛りあげていく手段にしたいと考えております。

又、九州各県の支部長様とも、横の連絡を取りながら結束をしていきたいと考えております。

又、今後共学校当局及び校友会本部との連携を図り、御指導頂き母校の発展及び校友会の活動の活性化に貢献出来る様に努力したいと考えております。

今後共、当支部への御指導、御協力をよろしくお願い致します。



沖縄県支部



平良 静香

建築学科
平成 13 年 卒業

私は卒業より行政の仕事に就き、これまで営繕や建築許認可の業務に従事して参りました。そして、2年前からは密集市街地の再開発に関する業務を行っております。

今回は業務として携わり、平成 23 年に完成した牧志・安里地区第 1 種市街地再開発事業をご紹介します。

当該地区は、沖縄県那覇市の中心市街地に位置しており、恵まれた立地条件にあるものの、地区内を蛇行して流れる河川の度重なる氾濫や老朽家屋の密集など、複合的な理由により都市基盤施設が不十分な地域でした。

このような課題を解決すると共に、合理的かつ健全な高度利用を図る目的で市街地再開発事業の実施が決定され、事業は地区内の権利者により構成される組合が施行者となり行われました。事業では河川の改修に加え、道路、駅前広場、居住施設、公民館などの公共施設が整備され、安心、安全な災害に強い姿へと生まれ変わりました。



事業前

今後も住民や観光客に親しまれ、発展を続ける地区であってほしいと願っております。

当該地区は国際どおり、モノレール牧志駅に面しております。沖縄県へお越しの際にはご覧いただけたら幸いです。



事業後

京三支部



支部長
片山 雅則

工学部電気工学科
昭和 56 年 卒業

私たち株式会社京三製作所芝工会は、昭和 49 年に校友会「京三支部」として発足した職域支部であり現在の会員数は 28 名です。

弊社は「安全と信頼」を基調に鉄道信号システムのトップメーカーとして歩み続け、交通信号装置、パワーエレクトロニクスに加え、バリアフリーやセキュリティ、環境・エネルギーの分野でも事業を展開しております。

芝工会は事業部の枠を超えての会員相互の交流、親睦を図ることを目的とし、原則年 1 回の支部総会を開催しております。

昨年の活動内容は、6 月 9 日に校友会全国総会・懇親会への支部員の出席、6 月 22 日には地元横浜にて支部総会を開催しました。

支部総会は 16 名が出席し、支部員間の親睦を深めることが出来ました。特に昨年の総会では「京三支部」設立時の初代支部長が OB として遠路から出席され、孫ほども離れた世代の間で会員相互の親睦を深めることが出来たと共に、支部の歴史の深さを改めて確認することが出来ました。

今年度も 6 月の校友会全国総会・懇親会への支部員の出席、支部総会等を通じ、更なる会員相互の交流と親睦を図る予定です。

今後も、母校芝浦工業大学と校友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



黒潮会支部



支部長
加藤 善治郎

機械工学科
昭和 55 年 卒業

私は、平成 23 年の黒潮会支部定時総会に於いて支部長に選任されました加藤善次郎です。黒潮会支部は、昭和 24 年に新坂（故人）、島貫（現山形支部最高顧問）両先輩により空手道部として創設され、現在 64 年の歴史ある空手道部の OB 会組織で会員数は 300 名を超える組織であります。

黒潮会の活動は、

1. 空手道部に対して監督、コーチの派遣と指導援助を行う。
2. 学生空手道連盟に審判員、役員を派遣する。

これらを通じ、母校の課外活動に協力しております。現在は、昭和 45 年工業経営学科卒業の山田先輩が関東学生空手道連盟の評議員、昭和 58 年電気工学科卒業の藍君が事務局長を仰せつかり活動しています。

また、校友会活動に積極的に参加してきた支部でもあります。現在、私も校友会副会長を仰せつかっておりますが、私を含めて 6 名の常任幹事（角野、辻村、長沢、井出、福田の各先輩）を輩出しており、また地方支部に於いても多くの役員を輩出している支部です。今後も継続的に校友会活動に積極的に参加をさせて頂く所存でございます。これからも黒潮会支部を宜しくお願い申し上げます。

また、私は、昭和 55 年に機械工学科を卒業しましたので、まだ年齢的には 55 歳と若輩者です。校友会の皆様にご指導を賜りながら重責を果たしていきたいと思っておりますので、今後共御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



ギターアンサンブル部



支部長
渋谷 雅信

建築学科
昭和 53 年 卒業

当支部は昨年 12 月に設立いたし、現在約 355 名の登録で、現役は 36 名（新入部員見込み含む）です。3/15 に第 1 回支部定時総会（H25 年度）を開催しました。（19 名参加）久々の先輩・後輩が顔を合わせ昔話に花が咲きました。現在でも合奏を行っているグループが 3 以上あることが確認出来、創部 50 周年の記念イベントのコンサートで演奏することになりました。

私個人も昨年、転勤先（6 年間）から東京に戻り「東京マンドリン宮田楽団」というマンドリン・ギターオーケストラに入団し、練習に励んでいるところです。

現役学生は毎年 12 月に定期演奏会を開催し（今年第 50 回）、私達 OB・OG も聴きに行っています。

今後の活動計画は

- ① 6/8 の校友会全国総会・懇親会のイベントに演奏で参加させていただく予定です。

「ボーカルとパーカッションとのギターアンサンブル」でラテン & ポップスをお届けしたいと思います。（14 名）

- ② 10/26 に創部 50 周年の記念イベントを計画しています。（豊洲校舎）

総会・コンサート（3 グループ + 現役）・懇親会の 3 部構成となっております。校友会の今年の全国総会・懇親会を参考にしたいと思います。



現役の定期演奏会
（第 49 回：2012.12.16：光が丘 IMA ホール）



第 1 回支部定時総会の様子

清水建設芝浦会支部



支部長
中村 行男

建築学科
昭和 56 年 卒業

清水建設芝浦会は平成 12 年 3 月 16 日に発足し、今年で 13 年目となりました。4 月には 5 名の新入会員を迎え、平成 25 年 4 月 1 日付の会員が計 142 名となり、弊社の 1.3% の人数を占めるに至りました。また、各役員は鋭意統投しております。

清水建設芝浦会の活動としては、1 年に 1 度、総会および、懇親会を行っております。

今年度は校友会副会長の清水修司様に足を運びいただきました。前職時は弊社施工の建築物の竣工検査に幾棟も立ち会われたとのこと。厳しい冬の、とある弊社現場竣工検査時、思いがけずお汁粉が振る舞われ、暖を取らせていただいたとの心温まるエピソードを頂きました。

懇親会では恒例となりました新入会員から一言と、さらにここ数年の採用形態の多様化によりキャリア採用組の方数名からも一言、抱負を語っていただきました。

40 数名参加の会場には世代・学科・担当業務内容を超えて語り合い、頂戴した緑地に黄色が映える『支部旗』も飾り、盛会となりました。

最後に芝浦工業大学のますますの発展と、校友会皆様のご健勝を祈念いたしております。



MOT 同窓会支部



支部長
西河 洋一

工学マネジメント専攻
平成 21 年 卒業

MOT 同窓会支部は、2003 年に開設した芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科 (MOT) の修了生で構成され 2011 年 11 月に発足した支部です。

発足後は、修了生同士の交流において、ソーシャルメディアの一つである「facebook」の活用により全国ならび海外で活躍する会員同士の円滑な情報交換が日々行われております。また、MOT 同窓会支部役員による校友会本部主催の全国総会、賀詞交歓会などの各種行事への参加や「実学サロン」への講師派遣、2012 年 3 月に MOT を退任された吉久保誠一教授 (本学工学部機械工学科卒業、元：TOTO 株式会社専務取締役) の退任記念講演会の主催に加えて、同年 9 月には「MOT10 周年記念シンポジウム」を芝浦キャンパスにて大学との共催で開催、2013 年 4 月には、同年 3 月に MOT を退任された渡辺孝教授 (本学博士課程修了) の退任記念講演会を主催するなど、校友会本部、大学ならびに MOT 教授陣との連携も深める活動を積極的に展開しております。

今後とも校友会の皆様のご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



芝浦技術士会支部



支部長
大原 武光

電気工学科
昭和 37 年 卒業

芝浦技術士会支部は、2008年3月に設立された「芝浦技術士会」を母体とした支部です。2012年11月の設立以来、会員相互の技術研鑽および親睦の向上を図り、芝浦工業大学校友会と、母校である芝浦工業大学の発展に寄与する活動に勤めて参りました。

具体的には、2013年3月開催の「技術士CPD（継続研鑽）講座」ならびに2013年4月から開講した「技術士2次試験対策講座（電気電子部門・機械部門・建設部門）」が挙げられます。

引き続き、芝浦工業大学校友会及び芝浦工業大学への「技術士」に関する情報提供に加えて、情報交換を密接に行い、本支部が保有する技術資源を活用した芝浦工業大学卒業生の「技術士」育成と社会貢献に資する各種活動を展開する所存です。また、各種活動への取り組みについては、適宜、校友会ホームページでもご紹介する予定ですので、今後とも校友会本部、先輩各支部、大学教職員の皆様のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



三 芝 会



支部長
釜井 重一

建築学科
昭和 55 年 卒業

2013年3月4日(月)に芝浦工業大学校友会倶楽部にて支部総会を開催いたしました。芝浦工業大学からは、五十嵐久也理事長、野口一也経営企画部部長、陸上競技部監督の味澤善朗さま、校友会からは、鈴見健夫会長、加藤善次郎副会長、岩本行雄事務局長に出席して頂きました。

当会からは、正会員が9名、賛助会員11名、総勢20名の参加を得て支部総会・懇親会を開催しました。

芝浦工業大学の味澤陸上競技部監督には、先日の第80回埼玉駅伝競走大会の参加結果や、つい先ごろ帰ってきた合宿の様態など、現在の陸上競技部の近況等話して頂きました。近年の芝浦の学生の生真面目さなど大変楽しい話をたくさん伺えました。

また、今回の懇親会には2009年の卒業生が1名、2011年の卒業生が2名参加しました。若い仲間が増え大変活気のある懇親会となりました。今後とも若い仲間が気軽に参加できる会を運営して行きたいと思っております。

小さな職域支部で会員が建設会社社員であるため、加えて当芝浦工業大学の学生で真面目な人間が多い為か、常に支部総会懇親会を開催するにあたり、出席者を集めるのに苦労しています。現在は当支部の主旨に賛同して下さる先輩の方々に大変お世話になっているところです。

これからも、色々と知恵を絞り『継続は力なり』を實踐して行きますので、学校、校友会本部、先輩各位に置かれましては、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願いいたします。



“支部旗” 全国にひるがえる

授与支部一覧		
北海道支部	新潟支部	徳島支部
青森支部	長野支部	高知支部
岩手支部	山梨支部	大分支部
秋田支部	富山支部	福岡支部
宮城支部	石川支部	宮崎支部
山形支部	福井支部	佐賀支部
福島支部	静岡県同窓会支部	長崎支部
栃木支部	愛知支部	鹿児島支部
茨城支部	三重支部	沖縄支部
群馬支部	関西支部	清水建設芝浦会
埼玉支部	鳥取支部	英交会
千葉県支部	岡山支部	黒潮会
東京総支部	島根支部	三芝会
城東支部	広島支部	鹿芝会
多摩支部	山口支部	住芝会
神奈川支部	香川支部	

この支部旗のもとに校友が集い、支部活動の活性化と更なる拡大が期待されています。今、全国総会に於いて46、47旗目となる支部旗が多摩支部・岡山支部に手渡されました。



校友会「会員名簿」および2013年「新卒業生追補版」発刊について

校友会では、会員同士の連絡を取り易くすることが会員各位のお仕事や同好活動に役立ち、いずれ会員組織の活性化に繋がるとの考えのもとに、2006年に会員名簿を制作し販売してまいりました。その後この名簿を補完する形で毎年新卒者の名簿を制作しており、2013年3月新卒業生の方についても追補版を発刊いたします。

《ご利用について》

2006年に発刊した名簿は従来の卒年、学科単位の名簿ではなく、各県別、郵便番号順に編集したものです。

このため、各市町村にどのような会員（卒業生）がおられるか、また、お勤めの会社にどのような先輩、後輩がおられるか把握でき、会員同士の繋がりと、利用し易さを目指し編集したものです。

なお追補版についてはいずれも編集時間の関係から学科別掲載とさせていただきます。

《名簿への通し番号の付与について》

名簿の販売については個人情報保護法の精神を尊重するため一つの方法として全ての名簿に通し番号を付し、販売先が確認できるようにしました。是非、個人の利用のみに留めて頂きたいと考えております。

《名簿の販売について》

名簿の販売は1冊5,000円です。追補版のみご希望の方には1冊500円で販売しております。名簿購入ご希望の方は「名簿購入」と記入し、氏名、卒年、学科および送付先を明記し左記口座にご送金ください。ご入金確認後、発送いたします。振込用紙をご希望の方は事務局までご連絡ください。

また購入に関するご質問は右記校友会事務局までお問い合わせください。

●名簿代金振込先

郵便局 加入者名：芝浦工業大学校友会
口座番号：00160-5-9575

●名簿の購入に関するお問合せ

【芝浦工業大学校友会事務局】

〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目9番14号 芝浦工業大学内
TEL：03-5445-9634 FAX：03-5445-9635
E-mail：sitfriends@shibaura-koyu.jp

●住所変更等に関するお問合せ

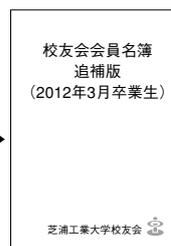
【学校法人芝浦工業大学 総務課】

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
TEL：03-5859-7010 FAX：03-5859-7011
E-mail：somu@ow.shibaura-it.ac.jp



5,000円
(送料込)

追補版
500円
(送料込)



印刷中（写真は2012年度版）

校友会 常任幹事会 名簿

(役員を除く) 平成 25 年 6 月 8 日 現在



常任幹事会議長・総務委員
渡辺 碩
建築 昭和 45 卒
株式会社 TAW 建築設計



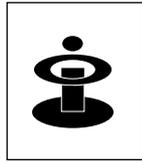
常任幹事・総務委員
小川 誠
機Ⅱ 昭和 41 卒



常任幹事・特別委員
菅 和利
土木 昭和 45 卒
芝浦工業大学工学部



常任幹事・副議長・組織委員
林田 和雄
建築 昭和 52 卒
港区議会議員



常任幹事・例規委員
竹村 孝
電気 昭和 41 卒



常任幹事・総務委員
小平 和一郎
電子工 昭和 45 卒
株式会社イー・ブランド 21



常任幹事
岡本 嘉行
建築 昭和 34 卒



常任幹事
小杉 俊明
建築 昭和 43 卒
日本 ERI 株式会社金沢支店



常任幹事
岡田 稔
建築 昭和 45 卒
日本 ERI 株式会社盛岡支店



常任幹事
中村 宏
土工 昭和 37 卒
サンエス工業株式会社



常任幹事
永野 修一
建築 昭和 43 卒
有限会社 敦



常任幹事・組織委員
内田 武男
土木 昭和 46 卒
株式会社奥村組



常任幹事・組織委員
奥村 克夫
電気 昭和 39 卒
芝浦工業大学



常任幹事
村田 省吾
建築 昭和 43 卒
株式会社 偕 アンソニエイツ



常任幹事・特別委員
角野 和明
建築 昭和 46 卒
芝浦工業大学総務部校友課



常任幹事・組織委員
滝沢 厚征
建築 昭和 39 卒
エヌエヌティ株式会社



常任幹事・組織委員
吉野 巖
機械 昭和 43 卒
有限会社エコ・セフティ



常任幹事・特別委員・
選挙管理委員長
辻村 建
建築 昭和 46 卒
株式会社エスアイテック



常任幹事・組織委員
田口 継道
建築 昭和 39 卒
株式会社田口継道建築設計事務所



事務局長
岩本 行雄
工化 昭和 44 卒
事務局長



常任幹事・特別委員
長沢 栄太郎
建築 昭和 46 卒
株式会社日本高分子
企業施行部



常任幹事・例規委員
今村 均
機械 昭和 40 卒



常任幹事・総務委員
加藤 浩
機工 昭和 44 卒
東西化学産業株式会社



常任幹事・例規委員
前野 和博
工経 昭和 46 卒
三興電気株式会社



常任幹事・財務委員
雲然 國幸
機Ⅱ 昭和 41 卒



常任幹事
野中 章光
土工 昭和 44 卒
株式会社建設技術研究所



常任幹事・総務委員
赤井 和憲
土木 昭和 47 卒
神奈川県議会議員



常任幹事・組織委員
岡本 泰明
機械 昭和 41 卒



常任幹事
小野瀬 等
通信 昭和 45 卒
日本ピーディ株式会社



常任幹事・特別委員
井出 恵尉
工経 昭和 47 卒
芝浦工業大学大宮校舎学事部



常任幹事
土屋 賢一
建工 昭和 47 卒
株式会社竹中工務店 参与



常任幹事・総務委員
中根 眞行
工経 昭和 55 卒
株式会社アドヴァンスト・イン
フォーメーション・デザイン



常任幹事・例規委員・
選挙管理委員
山口 正樹
電子 平成 5 卒
芝浦工業大学



常任幹事・組織委員
長井 義明
建築 昭和 47 卒
芝浦工業大学校友会倶楽部



常任幹事・組織委員
文倉 辰夫
電気 昭和 55 卒
六興電気株式会社



常任幹事・事業委員
新井 剛
金属 平成 7 卒
芝浦工業大学工学部



常任幹事・総務委員
野口 博文
土木 昭和 47 卒
株式会社アカネ



常任幹事・事業委員
元井 彰
土木 昭和 55 卒
岡部ビルエンジン株式会社



常任幹事・総務委員
柏倉 隆行
機械 平成 12 卒
芝浦工業大学生涯学習課



常任幹事・財務委員・
選挙管理委員
森川 理
電子 昭和 47 卒
アムス警備株式会社



常任幹事・例規委員
青木 豊治
機械 昭和 57 卒
株式会社吉田鉄鋼所



常任幹事・事業委員
野元 明俊
電子 平成 12 卒
新宿区議会議員



常任幹事・事業委員
斎藤 教男
建築 昭和 49 卒
株式会社ユニバアサル設計



常任幹事
平井 良樹
工経 昭和 57 卒
株式会社ひら井



常任幹事・財務委員
寺尾 謙
電気 平成 13 卒
校友・後援会連携課



常任幹事・事業委員
水口 和幸
建築 昭和 49 卒
株式会社ランドエステート



常任幹事・事業委員・
選挙管理委員
佐々木 克則
電気 昭和 60 卒
住友電設株式会社



常任幹事・事業委員
西河 洋一
工学マネ 平成 21 卒
株式会社アーネストワン



常任幹事・例規委員
木名瀬 英彰
土木 昭和 54 卒
世田谷区役所



常任幹事・事業委員・
選挙管理委員
渡辺 通宏
機械 昭和 60 卒
東京都庁



常任幹事・財務委員
安齋 正博
機Ⅱ 昭和 55 卒
芝浦工業大学デザイン工学科



常任幹事・特別委員
福田 栄寿
機Ⅱ 平成元卒
三洋電機株式会社



常任幹事・例規委員
釜井 重一
建築 昭和 55 卒
三井住友建設株式会社



常任幹事・総務委員
苅谷 義治
金属 平成 2 卒
芝浦工業大学工学部材料
工学科准教授



常任幹事・総務委員
田中 一男
建築 昭和 55 卒
日比谷総合設備株式会社



常任幹事・組織委員
吉本 竜也
建築 平成 3 卒
株式会社奥村組

校友会 支部及び支部長一覧

支部名	支部長	
	氏名	卒年・学科
北海道	植田俊光	39・建築
青森	下山勝弘	41・土木
岩手	遠藤龍一	50・建築
秋田	渡邊淳悦	51・建築
宮城	秋山輝正	37・土木
山形	川越進	46・土木
福島	濱田英晴	45・機械
栃木	宇塚典夫	37・土木
茨城	村田省吾	43・建築
群馬	小貫諭	52・工学マネ
埼玉	泉澤定雄	46・建築
千葉県	井上正教	38・電気
東京総	大丸征史	39・電子
城東	是松景一	43・機械
多摩	岡本泰明	41・機械
神奈川	安藤脩二	35・電気
新潟	野崎和久	44・土木
長野	北村武彦	45・建築
山梨	竹村孝	41・電気
富山	川崎政善	45・建築
石川	小杉俊明	43・建築
福井	西浦正三	45・土木
岐阜	平井良樹	57・工経
静岡県同窓会	松村和彦	36・電気
愛知	平塚秀雄	40・電気
三重	谷水佐久也	50・電子
関西	水口讓	48・建築
鳥取	富本哲郎	40・電気
岡山	沖本光昭	45・通信
島根	浅野正教	45・建築
広島	立木貢	43・土木
山口	石山克之	50・土木
香川	乾篤之	45・通信
徳島	宮本博	47・建築
愛媛	高木二郎	47・建築
高知	吉本哲生	50・土木
大分	三浦弘志	41・土木
福岡	中村宣壽	41・建築
宮崎	尾形彰史	52・建築
熊本	三角保之	38・電気
佐賀	御厨康司	39・電気

支部名	支部長	
	氏名	卒年・学科
長崎	中村裕	37・建築
鹿児島	濱田英俊	43・電気
沖縄	藤元節男	45・建築
韓国	金範得	19・土木
台湾	呉聲潤	21・機械
英交會	浅野昌宏	44・電子
黒潮會	加藤善次郎	55・機械
芝友會	中村信夫	19・機械
緑會	是松博文	37・電気
MOT同窓會	西河洋一	H21・工学マネ
機械工学科同窓會	畠中總一郎	43・機械
二部フットボール部OB會	梅元千代志	41・電工
よろく會	小寺貴士	46・通信
錬心會	藤林祐二	40・建築
柔道部OB會	早川金光	51・建築
芝浦技術士會	大原武光	37・電気
硬式野球部OB會	前野和博	46・工経
サッカー部OB(OG)	渋谷雅信	53・建築
安藤建設芝浦會	不在	
大林グループ芝浦會	不在	
奥村組芝浦會	吉本竜也	H3・建築
神奈川県庁	鈴木祥一	56・土木
川崎市役所	木村純一	53・土木
関電工芝浦會	樋口雄一	49・土木
京三	片山雅則	56・電気
熊谷組芝浦會	安川良博	52・機械
五洋建設芝浦會	五十嵐信一	57・建工
三芝會	釜井重一	55・建築
鹿芝會	不在	
清水建設芝浦會	中村行男	56・建築
住芝會	南山佳徳	62・電気
大成芝浦會	種元賢弘	H2・建築
ダイダン	西内義充	47・機械
大日本土木	長谷川勝己	56・土木
高砂熱学工業	竹内祥貴	55・電気
竹中芝浦會	伊藤達司	52・建築
戸田建設芝浦會	古越仁	55・電気
飛鳥建設芝浦會	安武浩	62・建築
日比谷芝浦會	岡本正仁	45・建築
フジタ芝浦會	小林倫雄	H元・建工

資格取得講座のご案内

芝浦工業大学校友会では、日建学院と提携し資格取得講座への紹介を行っております。校友会を通して申し込むと、通常価格より安く受講できますので、スキルアップやキャリアアップに是非お役立てください。

受講できる講座は日建学院が提供しているニッケンbbスクールです。これはWEB講座でブロードバンドインターネットを使用した動画による講義です。講義の内容はこの講座用に企画し、吟味されているものですので講師による不得手などが排除されており、教室に通学するより効果が期待できます。また、通学が難しい地方の方でも受講可能です。

◎提供する講座	一般学費	校友会特別学費
● 一級建築士 学科bb講座	315,000円	⇒ 157,500円 (25年度受験)
● 二級建築士 学科bb講座	262,500円	⇒ 149,100円 (25年度受験)
● 宅地建物取引主任者 bb講座	105,000円	⇒ 84,000円 (25年度受験)
● 一級建築士 学科講座	514,500円	⇒ 449,400円 (25年度受験)
● 一級建築施工管理技士 学科講座	231,000円	⇒ 219,450円 (25年度受験)

◎講座内容

- 講座内容は日建学院ホームページでも確認できます。
- 日建学院ホームページ：
<http://www.ksknet.co.jp/nikken/>

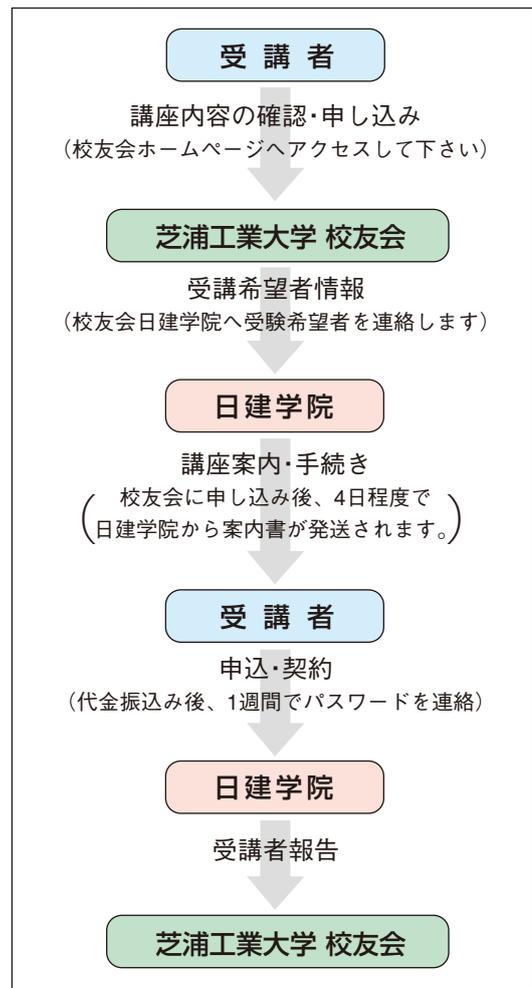


◎申し込み方法

- 校友会ホームページ上から必要事項を記入しお申し込みください。
校友会ホームページ：<http://www.shibaura-koyu.jp/>
- 校友会にお申し込み後4日程度で日建学院から案内状が発送されます。
- 代金振込み後、1週間でパスワードが通知されます。



◎案内から申し込みまで



ご不明な点は校友会事務局にお問い合わせください

芝浦工業大学校友会
事務局

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内
TEL:(03)5445-9634 FAX:(03)5445-9635
E-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp



芝浦工業大学 校友会

事務局 〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内
TEL:03 (5445) 9634 FAX:03 (5445) 9635
<http://www.shibaura-koyu.jp/>
E-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp